

第72回 東北地区高等学校PTA連合会

福島大会 報告書

令和5年7月6日(木)・7日(金)

パルセいいざか(福島市飯坂温泉観光会館)

ホテル福島グリーンパレス

届けよう、エール
未来を切り拓く子どもたちへ



主催 東北地区高等学校PTA連合会

共催 一般社団法人全国高等学校PTA連合会

後援 福島県教育委員会 福島市教育委員会 福島県高等学校長協会
公益財団法人日本教育公務員弘済会

主管 福島県高等学校PTA連合会



目次

| | | | | |
|----|------|------------------------|-------------------|---------|
| 01 | I | 福島大会フォトギャラリー | | |
| 13 | II | 福島大会を終えて | 大会実行委員長 | 鈴木 進一 |
| 14 | III | 福島大会開催要項 | | |
| 16 | | 福島大会次第 | | |
| | IV | 開会行事 | | |
| 18 | | あいさつ | 福島大会会長 | 鈴木 健児 |
| 19 | | | (一社)全国高P連会長 | 山田 博章 |
| 20 | | 来賓祝辞 | 福島県知事 | 内堀 雅雄 |
| 21 | | | 福島市教育委員会教育部長 | 三浦 裕治 |
| 22 | | 受賞者代表謝辞 | 岩手県高P連顧問 | 大柏 良 |
| | V | 研究協議 | | |
| 23 | | テーマ・発表者一覧 | | |
| 24 | | 発表要旨 | | |
| 36 | | 質疑応答 | | |
| 37 | | 指導助言 | | |
| 38 | VI | 講演 「東北の災害リスクと子どもたちの未来」 | | |
| | | | 気象予報士・防災士・気象キャスター | 斎藤 恭紀 氏 |
| 47 | VII | 閉会行事 | | |
| | | 次期開催県あいさつ | 山形県高P連会長 | 古沢 和明 |
| | | | 山形大会実行委員長 | 近藤 聡 |
| | | 閉会宣言 | 大会実行委員長 | 鈴木 進一 |
| 48 | VIII | 編集後記 | | |



第72回 東北地区高等学校PTA連合会 福島大会 フォトギャラリー



情報交換会 7月6日(木) ホテル福島グリーンパレス



歓迎演奏 アミーゴ・デ・川俣



大会実行委員長
鈴木 進一



大会会長
鈴木 健児



全国高P連会長
山田 博章



福島県教育委員会教育長
大沼 博文



福島市生涯学習課長
遠藤 彰



福島県高等学校長協会会長
鈴木 芳人



大会副実行委員長
渡邊 忍



司会
三ヶ森小百合





HAPPYふくしま隊



開会行事 7月7日(金) パルセいいざか



オープニング・巻藁射礼 福島県立橋高等学校 弓道部



大会実行委員長
鈴木 進一



大会会長
鈴木 健児



全国高P連会長
山田 博章





福島県知事
内堀 雅雄



福島市教育部長
三浦 裕治



表彰者代表
阿部 希望



広報誌コンクール最優秀賞
盛岡北高等学校



大会副実行委員長
齋藤 久



大会副実行委員長
大泉きよみ



司会
三ヶ森小百合

研究協議 「子どもたちへのエール、私たちにできることは」



山形県立米沢商業高等学校PTA会長
加藤 正憲



宮城県気仙沼向洋高等学校PTA会長
村上 真人



秋田県立大館桂桜高等学校PTA会長
川田 諭



青森県立名久井農業高等学校PTA会長
大向 裕子



岩手県立花巻農業高等学校PTA会長
志田藤ひとみ



福島県立会津高等学校PTA会長
森田 康文



指導助言者
高橋 正人 氏



講演 「東北の災害リスクと子どもたちの未来」

気象予報士・防災士・気象キャスター
齋藤 恭紀 氏



花束贈呈
大会副実行委員長 小山 正枝



高校生発表



福島県立原町高等学校 箏曲部



福島県立
福島高等学校
ジャズ研究部



福島県立福島商業高等学校 吹奏楽部



閉会行事

次期開催県あいさつ 山形県高等学校PTA連合会



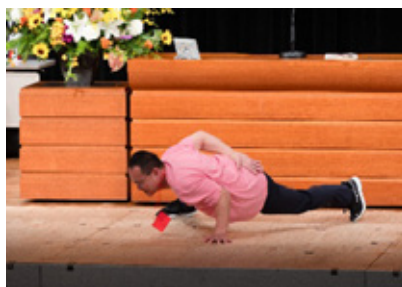
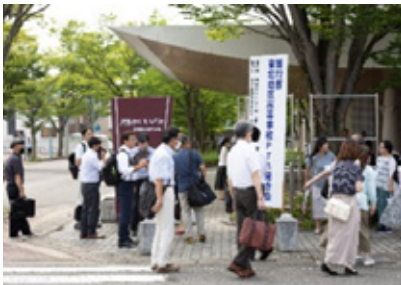
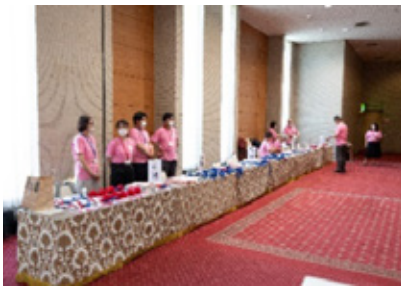
閉会宣言 大会実行委員長 鈴木 進一



大会スナップ(1)



大会スナップ(2)



大会スナップ(3)



福島大会を終えて



第72回東北地区高等学校PTA連合会福島大会 実行委員長

鈴木 進一

第72回東北地区高等学校PTA連合会福島大会は、令和5年7月6日(木)、7日(金)の2日間にわたり開催され、900名を超える参加者を得て、盛会のうちに終了することができました。ご多用のところご出席をいただいた来賓の皆さま、東北各県からご参加いただいた会員の皆様に、実行委員会を代表して厚く御礼を申し上げます。

本大会は、「届けよう、エール ～未来を切り拓く子どもたちへ～」のテーマのもと、将来を担う子どもたちに我々が送るべきエールを共に考える機会として、4年ぶりに開催した情報交換会や従来の方式による研究協議をはじめ、コロナ禍以前の大会の姿を取り戻す形で開催することができました。これも関係の皆様のご理解とご協力の賜と、重ねて感謝を申し上げます。

6日の情報交換会は、高校生のフォルクローレバンドによる歓迎演奏、福島県観光PR隊のパフォーマンスにより、大いに会場を盛り上げていただきました。会場の担当者によるとこれだけ大きな規模の会合は久々とのことで、参加された約400名の皆様も、存分に語り、存分に福島のお酒を酌み交わし、交流されている様子が印象的でありました。

7日の大会は、橘高校弓道部の厳かな巻藁射礼で幕を開け、研究協議では6県代表の方々から、特色あるPTA活動の発表がありました。お昼は、原町高校の芸術性豊かな箏曲演奏、福島高校ジャズ研究部の心躍る演奏をお届けしました。

午後の講演は、福島で人気の気象予報士・斎藤恭紀さんに、「東北の災害リスクと子どもたちの未来」と題して、防災の心構え等について楽しくお話をいただきましたが、「今年は、めちゃくちゃ暑くて長い夏」という予報は、残念ながら的中してしまいました。

大会フィナーレは、多くの名曲を残した古閑裕而の母校・福島商業高校の吹奏楽部による古閑メドレーの演奏で、おなじみのメロディーをお楽しみいただけたものと思います。

今大会を終えて最も印象に残ったことは、リアルで人々が集い、顔を合わせて言葉を交わすことの大切さでした。実行委員からは、日常の地道な活動も大切だが、大会で感じた祝祭感や高揚感、コロナ禍で忘れていたものを思い出させるものだったとの感想もありました。参加された皆様にも、そういうものを求める気持ちがあったのではと思います。福島大会が今後のPTA活動の刺激となり、共に子どもたちの成長を支える活動の一層の充実に繋がるものであれば幸いに存じます。

最後になりますが、本大会の開催にあたりご支援ご協力をいただきました関係諸機関、PTA会員の皆さまに改めて感謝を申し上げます。誠にありがとうございました。



第72回東北地区高等学校PTA連合会

福島大会 開催要項

- 1 期 日 令和5年7月6日(木)・7日(金)
- 2 会 場 パルセいいざか（福島市飯坂温泉観光会館）ホテル福島グリーンパレス
- 3 主 催 東北地区高等学校PTA連合会
- 4 共 催 一般社団法人全国高等学校PTA連合会
- 5 後 援 福島県教育委員会 福島市教育委員会 福島県高等学校長協会
公益財団法人日本教育公務員弘済会
- 6 主 管 福島県高等学校PTA連合会

7 東北地区高P連大会開催目的

会員が相互に連携し、子どもたちの豊かな個性の伸長を図り、社会の進展に対して主体的に取り組むことができるたくましい高校生を育成するため、研修・研鑽を積み重ね、今後のPTA活動のさらなる充実発展に寄与する。

8 東北地区高P連大会開催方針

- (1) 保護者と教職員の生涯学習の場として、高校教育に関する建設的な意見交換を行う。
- (2) 高校生の健全育成や進路に関する問題について討議し、今後のPTA活動を充実させる。
- (3) 保護者・学校・地域社会がともに手を取り、高校教育の諸問題に取り組む。
- (4) 社会におけるPTAの役割を確認すると共に、会員相互の交流と連携を図る。

9 福島大会テーマ、開催趣旨、研究協議テーマ

(1) テーマ

「届けよう、エール ～未来を切り拓く子どもたちへ～」

(2) 開催趣旨

人口減少や少子高齢化に伴い多くの面で縮小しつつある社会、パンデミックや相次ぐ自然災害、さらには不安定な国際情勢等の影響により、私たちの生活やものの見方は大きく変わらざるを得ない状況にあります。

また、めざましく発展・進化するICTやAIは、技術面だけでなく人々の世界の捉え方や価値観をも急速に変えていくことが予測され、私たちはこれまで以上に広汎かつ多岐にわたる考え方やものごとの本質を理解し、的確に対処していくことが求められています。

激しく変化する社会に対応し、人生をたくましく切り拓いていく力。多様な個性を認め合い、力を合わせて新たな社会を創造する力。未来を担う子どもたちが、これらの力を身につけていくことができるよう、私たちが送るべきエールとは何かを共に考えましょう。

(3) 研究協議テーマ

「子どもたちへのエール、私たちにできることは」



10 講演

講師 斎藤 恭紀氏 (気象予報士、防災士、気象キャスター)

演題 「東北の災害リスクと子どもたちの未来」

11 大会日程及び会場

| 月 日 | 時 間 | 内 容 | 会 場 |
|---------|-------------|---|---|
| 7月6日(木) | 10:30~12:00 | 大会運営会議 (実行委員・専門部長・他関係者) | バルセいいざか 〒960-0201 福島市飯坂町字筑前27-1 TEL 024-542-2121 FAX 024-542-2600 |
| | 13:00~16:30 | 専門部会 (打合せ及び準備作業) | |
| | 14:00~16:30 | 研究協議打合せ ステージリハーサル (発表者・助言者・司会者等) | |
| | 17:00~17:30 | 情報交換会受付 | ホテル福島グリーンパレス 〒960-8068 |
| | 17:30~19:30 | 情報交換会 アトラクション (HAPPYふくしま隊 他) | 福島市太田町13-53 TEL 024-533-1171 |
| 7月7日(金) | 9:00~9:30 | 大会受付 | バルセいいざか 〒960-0201 福島市飯坂町字筑前27-1 TEL 024-542-2121 FAX 024-542-2600 |
| | 9:30~10:20 | 開会行事 表彰式 オープニング (橋高校弓道部) | |
| | 10:30~12:00 | 研究協議 (各県連代表による研究発表) 質疑応答 指導助言 | |
| | 12:00~13:00 | 昼 食 高校生発表 (原町高校箏曲部・福島高校ジャズ研究部) | |
| | 13:00~14:30 | 講演 演題 「東北の災害リスクと子どもたちの未来」 講師 斎藤 恭紀氏 | |
| | 14:40~15:00 | 高校生発表 (福島商業高校吹奏楽部) | |
| | 15:00~15:10 | 閉会行事 次期開催県 (山形県) 代表挨拶 | |

第72回東北地区高等学校PTA連合会 福島大会 次第

期 日 令和5年7月6日(木)～7日(金)

場 所 パルセいいざか(福島市飯坂温泉観光会館) ホテル福島グリーンパレス

[7月6日(木) 会場：ホテル福島グリーンパレス]

情報交換会 17:30～19:30

| | 総合司会 | 福島県立相馬農業高等学校 | 三ヶ森 小百合 |
|------------------|------|----------------------------|--------------------|
| 1 歓迎演奏 | | フォルクローレ | アミーゴ・デ・川俣 |
| 2 開会のことば | | 大会実行委員長 | 鈴木 進 一 |
| 3 あいさつ | | 大会会長 (一社)全国高P連会長 | 鈴木 健 児 |
| 4 祝 辞 | | 福島県教育委員会教育長 福島市教育委員会教育長 | 山 田 博 章 大 沼 博 文 |
| 5 来賓紹介 | | 大会副実行委員長 | 佐 藤 秀 美 大 泉 きよみ |
| 6 鏡 開 き | | | |
| 7 乾 杯 | | 福島県高等学校長協会長 | 鈴木 芳 人 |
| 8 祝 宴 アトラクション | | 福島県観光PR隊 | HAPPYふくしま隊 |
| 9 中 締 め | | 大会副実行委員長 | 渡 邊 忍 |

[7月7日(金) 会場：パルセいいざか(福島市飯坂温泉観光会館)]

1 開会行事 9:30～10:20

| | 総合司会 | 福島県立相馬農業高等学校 | 三ヶ森 小百合 |
|----------------------|------|---------------------|--------------------|
| オープニング | 巻藁射礼 | 福島県立橘高等学校 | 弓 道 部 |
| (1) 開会のことば | | 大会実行委員長 | 鈴木 進 一 |
| (2) あいさつ | | 大会会長 (一社)全国高P連会長 | 鈴木 健 児 |
| (3) 祝 辞 | | 福島県知事 福島市長 | 山 田 博 章 内 堀 雅 雄 |
| (4) 来賓紹介 | | 大会副実行委員長 | 木 幡 浩 大 泉 きよみ |
| (5) 表 彰 | | | |
| ① 表彰状贈呈 | | 受賞者代表 | 阿 部 希 望 |
| ② 感謝状贈呈 | | 受賞者代表 | 大 柏 良 |
| ③ 令和4年度広報紙コンクール表彰 | | 受賞者代表 | 岩手県立盛岡北高等学校 |
| ④ 受賞者代表謝辞 | | 受賞者代表 | 大 柏 良 |
| (6) 令和5年度東北地区高P連役員紹介 | | | |
| (7) 閉会のことば | | 大会副実行委員長 | 齋 藤 久 |



2 研究協議 10:30~12:00

テーマ「子どもたちへのエール、私たちにできることは」

コーディネーター 福島県立安積高等学校長 鈴木芳人

- (1) 研究発表 各県代表
(2) 質疑応答
(3) 指導助言 郡山ザベリオ学園小・中学校長 高橋正人氏

3 昼食・休憩 12:00~13:00

4 高校生発表 (12:15~12:45)

福島県立原町高等学校 箏曲部
福島県立福島高等学校 ジャズ研究部

5 講演 13:00~14:30

講師 気象予報士、防災士、気象キャスター 斎藤恭紀氏

演題 「東北の災害リスクと子どもたちの未来」

講師紹介 大会実行委員長 鈴木進一

花束贈呈 大会副実行委員長 小山正枝

6 高校生発表 14:40~15:00

福島県立福島商業高等学校 吹奏楽部

7 閉会行事 15:00~15:10

- (1) 次期開催県あいさつ 山形県高等学校PTA連合会長 古沢和明
(2) 閉会宣言 大会実行委員長 鈴木進一

開会行事・開会あいさつ



第72回東北地区高等学校PTA連合会 福島大会会長 鈴木 健児

皆さん、おはようございます。本日はお忙しい中、内堀雅雄福島県知事をはじめ、多くのご来賓のご臨席を賜り、誠にありがとうございます。全国高P連の山田会長もお越しくださいませ、誠にありがとうございます。そして東北地区高等学校PTA連合会の皆様！ この暑い暑い福島へようこそ！ 福島県高等PTA連合会員一同、心よりお待ちしております。これだけ多くの皆様にお集まりいただきましたこと、厚く御礼申し上げます。

昨年3年ぶりにリアル開催となった東北大会、今年は4年ぶりにレセプションも行うことが出来ました。我々を悩ませてきた新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことで、我々の日常、子供たちの学校生活も元に戻ろう！ と進み始めました。日本全体が「リスタート」し始めたこのタイミングで、福島で東北大会が行われることは、光栄であると同時に、非常に身の引き締まる思いでありました。

「届けよう、エール」今大会のスローガンであります。東北の、大きく言えば日本の未来を担う子供たちが、社会に羽根を拡げ飛び立つまでの3年間を過ごす場所、それが高校生活です。震災にもコロナにも負けなかった子供たち、充分たくましく力強いです。頼もしいです。でもやっぱりまだまだ若く、幼い子供たちです。そんな子供たちが壁にぶつかったり、悩んだりした時に、我々がどう背中を押してあげるのか、どんなエールを届けられるのか、お集まりいただいた東北地区の会員の皆様とともに考えていく一日にしたいと思っております。PTAはこうすべきだ！ などと結論づかなくてもいいと思います。何かを始めるきっかけになった、気づきになった。そんな一日になったと、今日お帰りにする時に、ご自宅に戻られ夜眠りにつく時にふと思い返すことのできるような、そのような一日にしていきたいです。

奇しくも今夜は七夕でございます。一年に一度、織姫と彦星が再会し愛を語り合うロマンチックな夜でございます。我々も一期一会、何かの縁あって東北6県から集まりました織姫と彦星でございます。七夕と同じ、一年に一度の東北大会です。子供たちの未来のため、大いに語り合い、意見し合い、素晴らしい東北大会だったと言えるようにしていきたいです。我々大会実行委員も全力で頑張ります。よろしく願いいたします！

最後になりますが、福島大会の開催にあたり、福島県教育委員会をはじめ、関係諸団体の皆様より多大なるご支援とご協力を賜りましたこと、心より感謝申し上げます。

そして鈴木進一実行委員長はじめ、福島大会実行委員会の皆様のご尽力には素晴らしいものであります。今、この場に立てるのも皆様のおかげであります。併せて深く感謝を申し上げ、挨拶とさせていただきます。本日はよろしく願いいたします。





一般社団法人全国高等学校PTA連合会会長 山田 博章

福島県、そして東北地区の皆さん、おはようございます。本年度、全国高等学校PTA連合会の会長をさせていただきます山田と申します。所属は近畿の和歌山県でございます。日頃はPTA活動に際しましてご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。また、福島県知事の内堀様をはじめ、ご来賓の皆様方におかれましては、公私ともご多忙の中ご臨席を賜り、重ねて御礼申し上げます。

さて、本日、第72回東北地区高等学校PTA連合会大会福島大会が、ここ福島市におきまして、福島県高等学校PTA連合会主管の下、盛大に開催されますことを、心よりお祝い申し上げます。振り返りますと、突如現れた新型コロナウイルス感染症により、東京オリンピック・パラリンピックが一年延期となり、そして密閉・密集・密接の3密を避け、ソーシャルディスタンスをとり、食事の際には黙食、というように、今までになかった単語が飛び交うようになりました。それらの影響で子どもたちは言うまでもなく、私たち保護者にとりまして、今まで当たり前のように行ってきた活動が様々な方面で制限を余儀なくされることにより、PTA活動の取組や関わり方を新たに考える一つの契機となったのではないのでしょうか。

そのような中で、今大会に掲げられております「届けよう、エール 未来を切り拓く子どもたちへ」というテーマは、まことに時宜を得たものであり、未来ある子供たちが将来の夢に向かって羽ばたこうとするのを、私たち保護者はどのようにバックアップし、その可能性を最大限に引き出し、実現へと導いていけるかを共に考える有意義なテーマになっていると思います。とはいえ、オンライン授業やデジタル教材、タブレット端末を駆使した、今日のいわゆるGIGAスクール構想は、私たち保護者の世代では全く無縁であったもので、それがもたらす利便性と引き換えに、新たに多くの課題を抱え込み、理解と探究が求められているのが実情ではないのでしょうか。そのように目まぐるしく変わりゆく中で唯一変わらないもの、それは親の子どもに対する愛情であると信じて、「今まではこのようにしていたから」という古い観念に囚われるのではなく、「現状はこうだから、このような対応・発想をしていく」といったような今後を見据えた持続可能なPTA活動の実践が必要であると考えております。

コロナ禍が加速させたとも言われる環境の変化に臨機応変に対応した活動こそが、やがて日本の未来を担うグローバルな視野を持った、心豊かな人材を育むことにつながるはずです。今大会が対面で通常開催されるにあたり、パソコンやスマートフォン等の画面を通じてのオンラインではなく、リアルに顔を合わせ対話できることの大切さを実感しつつ、共に学びあいながら、研鑽を積んでいただき、多くの情報共有と気付きを得て、明日からのPTA活動の参考になることを祈念申し上げます。

最後になりましたが、今大会を開催するにあたりましてご尽力をいただきました福島県高等学校PTA連合会をはじめ、ご後援をいただきました福島県や福島市の教育委員会、高等学校長協会、そして日本教育公務員弘済会、また協賛をいただきましたすべての皆様方に御礼を申し上げますとともに、今後ともより一層のご支援・ご協力をお願い申し上げます。私からの挨拶とさせていただきます。

来賓祝辞



福島県知事 内堀 雅雄

第72回東北地区高等学校PTA連合会福島大会が、このように盛大に開催されますことをお喜び申し上げます。

皆さん、ようこそ福島県にお越しくださいました。

県民を代表して心から歓迎いたしますとともに、本県での開催に御尽力を頂きました関係の方々に厚く御礼を申し上げます。

また、皆さんにおかれましては、日頃から学校や家庭、地域を結ぶ橋渡し役として、関係機関・団体と連携を密にし、教育の振興と発展に御尽力いただいておりますことに対し、心から感謝を申し上げます。

東日本大震災と原発事故から十二年余りが経過する中、皆さんを始めとする国内外からの温かい御支援と県民の皆さんの懸命な御努力により、福島県は着実に復興の歩みを進めてまいりました。

また、未曾有の複合災害からの復興を目指す本県だからこそ、子どもたちが自らの人生を力強く切り拓いていけるよう、情報を正確に読み解く力、自らの頭で考え表現する力、対話と協働を通じて課題を解決していく力を育成するなど、「福島ならではの」の教育を推進しております。

そのような中で開催される本大会は、「届けよう、エール～未来を切り拓く子どもたちへ～」をテーマに、会員の皆さんが一堂に会し、各県、各学校が抱える課題への対応や、次代を担う子どもたちの豊かな心を育む取組について意見を交わす貴重な機会となります。この大会を通して、福島県はもとより、東北全体における学校教育の更なる充実と健全な地域づくりがより一層進むことを期待しております。

また、皆さんには、この機会に是非、美しい自然や奥深い歴史、豊富な果物を始めとした、おいしい食など、本県の様々な魅力を満喫していただければ幸いです。

結びに、本大会が実り多きものとなりますことをお祈り申し上げますとともに、御参会の皆さんのますますの御活躍を心から祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。



来賓祝辞



福島市教育委員会教育部長

三浦 裕治 (木幡浩市長祝辞代読)

第72回東北地区高等学校PTA連合会福島大会が盛大に開催されますこと、心よりお祝い申し上げます。また、福島市での大会の開催を心より歓迎いたします。

福島市は、くだもの栽培が盛んで、初夏のサクランボからはじまり、桃、梨、ブドウ、リンゴ、イチゴと1年を通じて旬の味覚を楽しむことができ、果物の宝石箱と称されております。今の旬は、桃ですが、桃だけではない福島市の魅力も堪能できるものとなっております。また、ここ飯坂を含め、郊外には、個性が異なる3つの温泉を有しております。

今大会のテーマ『届けよう、エール』にもある『エール』。2020年の朝ドラ「エール」のモデルは、福島市出身の作曲家・古関裕而氏です。古関さんは、今年1月、野球文化の発展や魅力の発信に寄与した功績が認められ、野球殿堂入りいたしました。福島市では、古関裕而氏を生かしたまちづくりにも力を入れていきます。お時間がお許しになる方は、くだもの、温泉、古関裕而のまちづくりなど実湧満彩の福島市も堪能していただけたら、幸いです。

PTA連合会の皆様には、日頃より、学校と連携し、生徒たちの成長を支え、ご支援いただいておりますことに心より敬意を表します。とりわけ、新型コロナウイルス感染症の影響で、学校における活動には様々な制限があり、PTA活動においても、様々な制約の中で苦慮され、工夫を凝らし、ご支援・ご尽力いただき、皆様には、心より、感謝と敬意を表します。皆様には、研究大会、調査研究、研修会の開催などの様々な活動を通じ、社会教育、家庭教育の充実、そして、学校教育との連携に寄与いただいております。

昨今は、新型コロナウイルス感染症の流行のみならず、社会情勢の変化、国際紛争、学校の再編、新学習指導要領の導入など、子どもたちを取り巻く環境は大きく変化しています。このような様々な課題に学校、行政及び関係団体と連携を図り、課題解決に向けて取り組んでいる皆様の役割は、とても重要であると認識しております。引き続き、次世代を担う世代の健全育成にご尽力いただきますようお願い申し上げます。

結びに、この福島大会が、生徒の未来へのPTAの関わり方・東北6県の意見や思いを共有する場となり、子どもたちのより良い成長の支えにつながることを、そして、ご出席の皆様の今後益々のご活躍を祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。



受賞者代表謝辞



岩手県高等学校PTA連合会顧問
(東北地区高等学校PTA連合会前会長)

大柏 良

暑いですね。昨日も暑かったし、今日も暑かった。暑い中、熱い会になるといいなと思っております。

いつも変な挨拶をして、周りの人からいろいろ言われるのですが、私の家族にとっては、このコロナの3年間で、我が家は個室がなく、全部オープンスペース、そこに子どもが5人いまして、親が2人で7人が一緒にしていると、とにかく逃げ場がないという、非常に緊張感を強いられた、非常にきつい3年間でした。

私がPTAをやって、子どもたちにとっても私がPTAをやったということはいろいろな影響があったようで、最初は皆嫌がっていました。親父がこうやって学校の行事のたびに出てきて挨拶をしたりすると、「やめろよ早く。」とか言われてしまうのですが、一番上の兄貴は途中から私のことを「いやあ良かったよ、今回は。」「友達からも評判良かったよ。」と言ってくれるようになりました。次男は、急に2、3日前なのですが、「やっばお父さんが退任して嬉しい」とかっていうラインが来まして。何があったんだと思ったら、最後のPTA会報が配られたらしくて、私がいつもろくなこと書かないのですが、その時は中学校の息子の野球の大会で激高したことで、相手の選手が判定に文句を言ったので、「お前が文句を言うことじゃねえだろう!」と言ったら、私が退場になってしまった(笑)という内容でした。「そんなこと書くなよ」「俺らにとっては立場ないだろう」みたいな話をされました。

色々ありましたけれども、3年間やっているうちに、親の苦労を認めてくれた子どももいるし、やっぱり何か恥ずかしいなっていうことを言う子もいますし。ただ、私は、いろいろ考えるようになりました。私、ほんとに悪いことや、昔は子どもの頭をひっぱいたり、どうしても言うこと聞かない時は土間に引き出したりもしていたのですが、親の機嫌でやっちゃいけないなということ、この2年間で学びました。どうやったら子供たちをより良い未来に送り出していけるかっていうのを考えた時に、こっちの感情に任せてやっているのはいけないなっていうのを、噛んで含めて、どうしたらよいかを考えられるように、話せるようになったのは、こうやってPTAでしっかりと子どもたちと触れ合うようになって、初めて分かった事なんだなあと思いました。多分会場にいる皆さんは、ずっと前から気づいていたことなのでしょうが。すいません、最後のことで非常に個人的な、PTAをやって育ったこと、子供たちから得られたこと、個人的なことをお話ししてしまいました。

最後になりましたが、去年の盛岡大会も皆さんのおかげでなんとか開催することができましたし、今日もこうやって大勢の皆さんが集まっていたいて、PTAのことについてお話しできることが、福島大会の成功につながっていくと思います。皆さんの声の一つにできるような一日にできるといいなと思っております。

一緒に受賞した皆様を代表しまして、お礼を申し上げさせていただきます。ありがとうございました。



第72回東北地区高等学校PTA連合会

福島大会 研究協議

テーマ 「子どもたちへのエール、私たちにできることは」

コーディネーター 鈴木 芳人（福島県高等学校長協会会長・福島県立安積高等学校長）

指導助言 高橋 正人（郡山ザベリオ学園小・中学校長）

発表テーマと発表者（発表順）

| 県 | テ ー マ | 発表者・所属校 |
|----|--|--------------------------------|
| 山形 | 「チーム米商 顔晴ろう！」 ～PTA活動で有終の美を～ | 山形県立米沢商業高等学校 PTA会長 加藤 正 憲 |
| 宮城 | 「未来へ紡ぐ子どもへの親心」 東日本大震災、コロナ禍のPTA活動を通して | 宮城県気仙沼向洋高等学校 PTA会長 村 上 真 人 |
| 秋田 | 「学校・保護者・地域をつなぐPTA活動」 地域社会の中で、子どもたちが自分らしい生き方を 実現するために | 秋田県立大館桂桜高等学校 PTA会長 川 田 諭 |
| 青森 | 「進化していくPTA活動」 ～自然の恵みに支えられて再始動～ | 青森県立名久井農業高等学校 PTA会長 大 向 裕 子 |
| 岩手 | 「子どもたちと共に歩むPTA活動」 PTA活動をとおして共に学ぶこと | 岩手県立花巻農業高等学校 PTA会長 志田藤 ひとみ |
| 福島 | 「アフターコロナのPTA活動について」 我々ができることの再認識と共有 | 福島県立会津高等学校 PTA会長 森 田 康 文 |

「チーム米商 顔晴ろう！」

～PTA活動で有終の美を～



山形県立米沢商業高等学校

PTA会長

加藤 正憲

米沢商業高等学校は、令和5年に創立121周年を迎えました。121年というのは、仙台商業、福島商業に次いで、東北では3番目に歴史のある商業高校です。しかし、令和7年度には米沢工業高校との統合が決まっており、本日は有終の美を飾るべく、PTAとして何ができるかなどについてお話をしたいと思います。

生徒の様子を紹介しますと、3年生は総合ビジネス科と情報ビジネス科となっておりますが、統合を見据え1・2年生は商業科1学科のみとなっております。米商の特徴としては、地域定着、そして即戦力となる人材を育成しています。2年次から流通コース、会計コース、情報コースに分かれますが、商業高校の最大のメリットは、資格取得です。そして近年は、その資格を生かして進学する者が増えています。進学者の多くは、指定高校推薦などでの進学となりますが、就職を希望して入学してくる者も多く、特筆すべきこととしては、山形銀行から求人をお願いしており、県内では3校のみに求人を出しているそうです。

生徒数が減少しているため、以前ほどではありませんが、部活動も大変盛んで、ほとんどの部活動が全国大会への出場経験があります。去年は女子ホッケー部がインターハイ第3位となりました。文化部も負けていません。商業研究部は、地域を元気にする様々な活動をしています。去年は生徒が考案した「もちりんごパン」が東北地区のローソンで販売されました。おいしかったです。このような活動の様子は、米商の公式インスタグラムで毎日投稿されており、我々PTAにとっても子どもたちの学校生活の様子がわかり、大変助かっております。他にもホームページや学校だよりで、日々の生活の様子がわかります。

このような素晴らしい学校なのですが、統合というのは残念です。しかし、計画が変わるわけではありませので、素晴らしい学校になるよう、PTAとしても統合をバックアップしていくつもりです。現在、統合に向けて様々なことが行われております。今年度、令和5年度の入学生は、新しい学校第1期の卒業生となります。学校名と制服は、今年中に決まる予定です。

今までの米商の制服を紹介したいと思います。昭和、平成と、セーラー服から通称「赤ブレ」と呼ばれるブレザーに変わりました。新制服には、PTAの役員の中からも制服選定委員を出しています。偶然かもしれませんが、今年のPTA役員になっている方々は、本校の卒業生が多く、PTAの集まりがプチ同窓会になっているような気がします。実は私も米商の卒業生で、子ども2人も米商出身です。大きな声では言えないのですが、この場に立っているのも、私の担任が現在の米商の校長ということもあり、断ることができず、運命という一言でPTA会長を引き受けた次第です。

日本中どの学校もコロナ禍で、ここ3年ほどはPTA活動がほとんど行われていなかったと思います。そこで、コロナ禍前と今年度計画している活動についてご紹介します。



PTAの組織は各クラスから3名の理事を選出し、研修部、広報部のいずれかに属します。研修部は米商生マナーアップ活動などを行っています。広報部は年2回のPTA会報発行に向けた、準備と発行です。今年はコロナ前に戻し、学園祭においてPTAの模擬店を出店する予定です。

ここでPTAの活動として、課題と知っていることを、2つ挙げさせていただきます。

1つ目は、「PTA役員の成り手」の問題です。どの学校でも課題であると思われませんが、PTA役員を決めるまで、学年主任や担任が苦勞していると聞いています。どのような方法がいいのか、情報をご提供いただければ幸いです。

2つ目は、「統合に向けたPTA活動」です。統合に向けては様々な課題があります。「新会長はどうするのか」「会費、交流、組織は」等々ですが、結論としては、まずは呑もうと落ち着きました。つまり、顔を合わせるのが何より大切だということです。ただ、統合に関する記録等の情報が少ない状況にありますので、既に統合を終えた学校の情報について、ご提供いただければ幸いです。

米商生は、吾妻山が見つめる校舎で青春を謳歌し、卒業後は地域経済を担う一員として活躍してきました。この精神はたとえ統合になり、学校名が変わったとしても、変わらないものと確信しています。そのような子どもたちを、私たちPTAは、全力で応援していきたいと思っております。

最後に、チーム米商として掲げているスローガンです。『顔晴れやかに頑張るから、あと2年、米商、顔晴ろう』です。ありがとうございました。



「未来へ紡ぐ子どもへの親心」

～東日本大震災、コロナ禍のPTA活動を通して～



宮城県気仙沼向洋高等学校
PTA会長
村上 真人

本校は明治34年、気仙町立水産補習学校として開校。地域の産業である水産・遠洋漁業とともに発展し、多くの人材を輩出してきました。平成6年に現在の校名となり、「情報海洋科」「産業経済科」「機械技術科」の3学科に改編し、最新の技術や設備の導入を図り、幅広い分野に適応できる人材の育成を目指しております。

本校は、東日本大震災で校舎は全壊、気仙沼高校の校庭に仮校舎を建てて学校生活を再開し、平成30年に新校舎が完成し、充実した環境で学校生活が行われています。また、旧校舎は、「気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館」となり、全国から「防災教育の拠点」として、多くの方々に来館していただいております。

本校PTA組織の特徴は、地域性もあり、各支部の活動が盛んに行われていることです。震災前は「みなとまつりの巡回」「通学路清掃」「夜間パトロール」など、地域コミュニティを大切に活動してきましたが、震災で学区が変わって「新たなコミュニティづくり」に各支部が取り組んでいるところで「コロナ禍」となり、構築しつつあるコミュニティが寸断されました。今はPTAも「活動の是非」を含めて「持続可能な活動」を模索していかなければならないと、考えております。

役員選出について

震災以降 沿岸地区は広範囲に被災し、移転・転出により居住区の移動が相次ぎ、これまで支部に役員
の推薦を依頼してきたが、決定に時間を要した。

コロナ禍 密接密集を避けるため、郵送や電話により対応していたが、メール、ライン及び学校配信メー
ル「楽メ」を活用したコミュニケーションの取り方に变化した。

これから 支部活動は自粛していても情報は共有され、今年は順調だったが、少子化で支部人数は減少
傾向にあり、今後は選考方法や、役員人数の適正も課題となっている。

PTA総会について

震災以降 仮設校舎での開催だったが保護者の関心は高く、会員の半数約150～180人は出席していた。
しかし、当時の課題は、震災で転職した保護者も含めて、土日に仕事をしている保護者も少なくない。※復
興関係、医療関係等

コロナ禍 令和2、3年と総会は書面での決議とした。令和4、5年度は、感染症対策をし、開催した
が出席者は激減（約50名）

これから 5類になったが全てが解禁となっわけではなく、マスク着用率も高いことから、今後の総会も
コロナ前の出席は見込めないことが想定され、今後はオンラインによる開催、WEB承認等、開催時期、総
会方法などを踏まえ検討していきたいと思ひます。



支部総会及び支部活動について

震災以降 活動は震災前に及ばないが継続的に実施。集団移転や居住区の移動はあったが、地域コミュニティ再生の一翼を担い、生徒と地域を結びつける重要な役割を果たした。

コロナ禍 活動を自粛し、今年度から本格的に活動を再開したが、出席者は減少傾向。

これから 少子化(入学生減少)に伴い、支部会員の減少も踏まえ、従来どおりの活動は見込めない。また、気仙沼ではJRの路線が廃止、BRT(バス高速輸送システム)に変更された。これにより広域からの通学が可能となり、地域性を重視してきた支部活動についても、在り方を検討する必要があると考えています。

「登校時一声運動」「向洋祭PTA展示」「進路指導研修会」「PTA会報誌の発行」などは、震災やコロナ禍でも継続していますが、新たな取組についても紹介します。

学校美化運動について

新校舎移転を機に「親子奉仕作業」が始まりました。間もなくコロナ禍となりましたが、支部活動が困難な状況下で「できる人が、できるときに、できることをする」を掲げ、生徒では難しい箇所を、文化祭前の清掃作業として実施し、今後も継続を予定しています。

研修旅行について

過去の資料を紐解くと、遠方の施設見学や宿泊研修など、参加者も多く親睦を深めるPTAの一大行事でした。震災以降は日帰り研修となり、コロナ禍で中止しておりましたが、今年度は開催を予定しています。内容は進路対策を踏まえた企画としております。PTA行事もピンポイントで効率的かつ効果的なものにしようとしております。

子を思う親の気持ちは、いつの時代でも変わらないものと思います。本校は、東日本大震災とパンデミック下での生活を経験し、生活の再建を模索して参りました。「こんな時だからこそPTA活動が大切」との思いから、子どもたちの育成をサポートしたいと思い、地道に活動を継続してきました。

変化していく時代の中で、子どもたちの「しあわせ」を思い、楽しく、充実した学校生活を送ってほしいと願い、親としては「行ってらっしゃい」「お帰りなさい」「今日の部活どうだった」など。普段何気なく交わす挨拶が、未来へ紡ぐ子どもへの親からのエールとなると信じて、PTA活動を持続していきたいと考えております。



「学校・保護者・地域をつなぐPTA活動」

～地域社会の中で、子どもたちが自分らしい生き方を実現するために～



秋田県立大館桂桜高等学校

PTA会長

川田 諭

本校は創立8年目の非常に若い学校です。しかし、それは伝統ある3つの学校が統合してできた学校です。現PTA会長として、本校の特徴を活かしたPTA活動を考えたときに、どんな可能性や特色を見いだせるかをお話したいと思っております。

統合される前の3校を簡単にご紹介します。

大館工業高校は、創立から統合まで63年。卒業生約1万3千名。所在地の花岡町は国内有数の鉱山であることから、創立時は採鉱科を有する県立工業高等学校として発足しました。秋田県の県北部における工業教育の拠点校でありました。

次に大館高校です。平成4年に大館南高校と大館東高校が統合してできた学校です。創立から統合まで24年。現在は定時制の校舎として活用されています。調理、服飾、福祉などのコースがあり、現在の本校の生活科学科のベースになっています。

最後に、大館桂高校です。創立から統合まで102年。普通科と衛生看護科がある女子校でした。衛生看護科は現在の本校のカリキュラムでは引き継いでいませんが、介護分野でのノウハウや女子校ならではの校風や気概を感じさせる、茶道部、弓道部などの伝統ある部活動が引き継がれました。また、大館桂高校の閉校によって、県内の公立の男女別学高校は全て姿を消すことになりました。

このように、大館工業高校からは、機械、電気・土木建築などの工業科、大館高校からは調理・服飾・福祉などの生活科学科、大館桂高校からは現在の福祉コースの授業にも通じる、介護や看護の基礎知識や精神、女子校ならではの部活動や校風などが引き継がれて本校の土台が作られています。

本校には10ものコースがあり、子どもたちの様々な進路に対応できるカリキュラムとなっています。特に「学んだことを地元に戻元する」ことにとっても力を入れている学校です。

次に、本校の進路状況は、例年、進学が4割、就職が6割といったところで推移しています。また、就職先の内訳は県内企業と県外企業の割合は、7：3くらいで推移しており、学校の特色でもある工業科、生活科学科、ビジネスコース等での知識や技術または資格等を生かし、県内や地元で就職する生徒が多い学校であることが分かるかと思えます。

本校のPTA活動は、多くの高校でも行われている各専門部での活動がメインです。それぞれの専門部で「PTA会報発行」、「交通安全運動や校外指導」、「模擬面接の実施」、「PTA研修旅行等の企画」、「母親委員会に参加」などを継続して行っておりますが、これらの活動だけでは不十分だということではありません。多くの役員の方々にお手伝いいただき、学校側とも協力し、成果も残していると思えます。

しかし、私は、本校の、たくさんのコースがあり、地域事業に数多く参加しているという特色を、何とか



PTA活動に生かしたいと思っています。PTAが参画することで、もっと子どもたちも保護者も一層の満足や相乗効果が得られるはずだと考えております。

まだ構想段階で、具体例を示すまでには至ってませんが、たくさんの地域事業に参加して活動している本校は、保護者、つまりPTA役員が担当することも多々あります。この部分をPTA活動に繋げられないかと考えるようになりました。

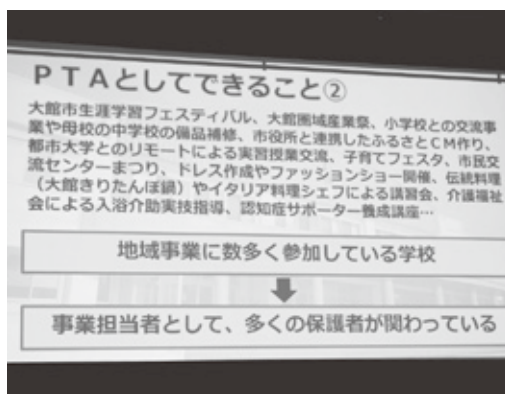
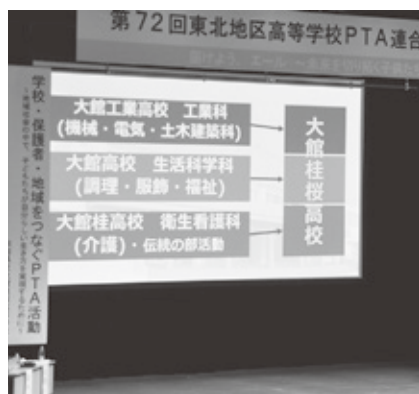
これまで、保護者は、ただ「子どもたちが地域の〇〇イベントに学校として参加・活動しているらしい」と自分の子どもの動向やメディア等で知るだけでしたが、関係者に保護者がいて、企画段階から参加したり、意見を取り入れてもらえる立場であれば、「桂桜高校の保護者と一緒に活動してみたいという方がいれば参加しても良いか？」とアクションしてもらい、活動を共有できる時間や場所を提供することができれば、たとえ数名の参加であっても、そこから発信されるものは、これからのPTA活動に非常に大きな力を持つのではないかと考えているのです。

最後にまとめです。先ほども申し上げたように、これらの活動は、まだ構想中・検討中であり、思っている理想のようにはないこともあると思います。しかし、新しい取組として、少しずつ、やれるところから、学校と調整しながら提案、または、着手していきたいと思っています。

「子どもたちの実習や学習成果を見られる」、「子どもたちも保護者も達成感を味わえる」、「PTA・地域・子どもたちが一体となった活動」➡メディア、会報、地域活性化でも充実が図れる。「活動している親も楽しくPTA活動を！」➡これが一番大事！

ともすればマンネリ化してしまうPTA活動を、学校の特色を生かし、協力、支援することで「学校・保護者・地域をつなぐPTA活動」の一端となり、さらには、その取組を通じて、我が子が「親も地域のためにこうして日々働いているんだ」と感じてくれるかもしれません。また、働く大変さや充実感、人と繋がる、支え合う大切さを、親も子どもも感じる事ができて、それについて親子で話すきっかけができるかもしれません。

やがて親となる子どもたちも、この発表のサブテーマにもある「地域社会の中で、自分らしい生き方を実現」していこうとする、大きなきっかけや意識付けのためにPTA活動が一役買えれば、これほど誰にとってもプラスになることはないと思っています。



「進化していくPTA活動」 ～自然の恵みに支えられて再始動～



青森県立名久井農業高等学校
PTA会長
大向 裕子

1 はじめに

教育理念、「強く 明るく そして責任を持つ」

三八地域にある唯一農業を学べる青森県立名久井農業高等学校は、昭和19年、学校組合立名久井農業学校として現在の三戸郡南部町に開校。昭和23年に青森県へ移管され、名久井農業高等学校が誕生。令和5年度現在、生物生産科、環境システム科の2つの学科があり、生物生産科は、3つの農場で作物や果樹の栽培を、環境システム科は、花卉、施設の設備、システムに関わる知識と技術の習得の為、それぞれの分野について学んでいます。

研究活動では、昨年度、第30回地球環境大賞で文部科学大臣賞を受賞、日本ストックホルム青少年水大賞受賞し、日本代表として別名、水のノーベル賞と呼ばれる国際大会へ出場、またイオンエコワングランプリでは環境大臣賞を受賞しました。これらの名誉ある賞を受賞し、テレビや新聞など多くのメディアに取り上げられました。

校外活動では、農家に出向いて農作業の手伝いをする農作業支援活動や地域の環境緑化や環境整備を行う地区分会活動を、ともに春と秋の年2回実施しています。春の花と野菜苗の販売、秋の農産物即売会は、地域の方や保護者からも好評で、毎年大盛況です。また、昨年度は3年ぶりに名農祭の一般公開をし、久しぶりに地域の方にも生徒の活躍を披露する事が出来ました。

2 学科は、令和5年4月現在、生物生産科88名、環境システム科67名、合計155名です。全国募集により、1名の入学者がありました。

3 部活動は、アーチェリー部、バスケットボール部、陸上部、硬式野球部、サッカー部、ソフトテニス部、卓球部、郷土芸能部、吹奏楽部、茶華道部、生物愛好会があります。アーチェリー部では、個人ですが高校総体、新人戦で東北大会に出場した生徒がおり、今後の活躍が期待されています。

4 令和4年度のPTA活動を紹介します。

(1) 朝の一声運動。5月と9月の2回、3日間実施。昨年度は保護者、教職員ののべ44名の参加がありました。いつもと違う雰囲気には生徒達は緊張気味で恥ずかしそうに小さい声で挨拶をする生徒、にっこり笑顔で挨拶を返す生徒、礼儀正しく立ち止まり挨拶してくれる生徒などそれぞれでしたが、元気に登校する生徒達を見る事が出来ました。

(2) 9月17日、八戸水産高校との交流会。コロナ禍で2年間実施することが出来ませんでした。3年ぶりに開催できました。当日は、晴天の中、八戸水産高校15名、本校13名が参加し、2つの農場で真っ赤なりんご、ぶどう、大根、トマト、おくら、顔くらいの大きななすやピーマンなどたくさんの種類の果物や野菜の収穫の体験をしてもらいながら情報交換が出来ました。今年度は、水産高校が担当校となっ



ていますので、とても楽しみにしています。

- (3) 1学年名久井岳登山サポート活動。10月7日実施。名久井農業高校恒例の1学年名久井岳登山です。登山前に水分補給をする目的と生徒達に頑張ってもらうための活動をしています。水分補給を終え、保護者の声援をもらい元気に登山に出発。生徒、教職員、全員登頂に成功する事が出来ました。
- (4) 10月22日、焼き肉のタレ作り。本来は大勢の保護者が参加してくれますが、去年はコロナ禍でもあり、人数制限をしたため12名の参加で実施。伝統ある焼き肉のタレ作りは、3年ぶりに実施することが出来ました。材料のりんご、玉ねぎ、にんにく、人参は、本校農場で収穫した作物を使用しています。完成した焼き肉のタレは、学校行事である収穫感謝祭の焼肉会食の際に生徒に食べてもらいました。また職員玄関でも販売をする事が出来、完売となりました。引き続き、本校の自慢できる伝統ある焼き肉のタレのレシピを残していく為にも活動をしていきます。
- (5) 7月21日、体育祭給水サポート活動。コロナ禍により昨年度まで教職員にお願いしていましたが、今年度は、水分補給のサポートをしながら生徒の応援と参加が出来ればと思っています。

5 まとめ

コロナ禍の3年間は、様々な行事が中止となり、生徒の為に活動をする事がほとんどできず、我慢の日が続きました。ウィズコロナからアフターコロナへ変わっていく中で、今までやってきた事に新しい事をプラスし、パワーアップしたPTA活動をやっていけたらと思っています。令和5年度から青森県内の5校が全国募集を開始しました。本校もその1つです。南部町からは町の高校、南部町立という親しみを持った意識で協力、連携をしていただいております。これからも本校PTAは新しいことを取り入れながら、生徒も保護者も名久井農業高等学校に来て良かったと思える活動を広めていきたいと思っています。



「子どもたちと共に歩むPTA活動」

～PTA活動をとおして共に学ぶこと～



岩手県立花巻農業高等学校

PTA会長

志田藤 ひとみ

本校は岩手県のほぼ中央部の花巻市に位置し、今年で創立117年を迎えます。敷地内には羅須地人協会と宮沢賢治像があり、見学者はコロナ前で年間3万人にも及んでいます。

現在、生物科学科・環境科学科・食農科学科の3学科があり、264名の生徒が勉学に部活動に励んでいます。

入学式後にPTA入会式を行い、その後、クラス毎に役員・専門委員の選出を行っていますが、その際PTA会長・副会長が手分けして各クラスに入り、選出の手伝いを行っています。ここ数年コロナのために書面決議で行っていましたが、今年度のPTA総会は4月28日に学校を会場に行うことができました。

これから紹介する4つの各専門委員が一堂に会して今年度の計画を決定します。

本校では、研修広報委員会、健全育成委員会、環境整備委員会、母親委員会の4つの委員会が中心になってPTA活動を行っています。

研修広報委員会は、広報活動によって学校の様子を幅広く紹介することが役割です。特にここ数年はコロナウイルス感染症の影響もあり、保護者が学校行事に関わるのが難しく、広報として発行しているイーハトーブ通信やPTA会報を通して保護者に学校の様子を詳しく知らせることの重要性が増しました。昨年度の発行回数はイーハトーブ通信5回、PTA会報1回発行しました。今年度もイーハトーブ通信第1号を発行しました。

また、今年度は、暫く実施していなかったPTA研修視察を行いました。視察先はTDKと岩手県立農業大学校とし、保護者の進路に関する意識を高めることができました。

健全育成委員会の活動は、朝のあいさつ運動を活動の柱とし、年間2回計5日間、学校近くの通学路や校舎前に担当の先生方と生活委員会の生徒と共に「あいさつ」と「横断歩道での声掛け」の活動を行っています。参加した委員さんからは、「声がもっと大きいといいな」「制服の着こなしは親もしっかり見なければ」などの意見が出されました。

また、委員の皆さんにおいては、この活動に限らず、子どもたちが家で話している学校生活で楽しいことや心配なことなどの情報交換も行われており、学校への情報提供の場にもなっています。

環境整備委員会は、「花いっぱい運動」を継続して行っています。この活動は生物科学科の生徒が愛農場で育てたマリーゴールドやサルビアの花苗を、生徒と保護者が一緒になってプランターに移植し、そのプランターをJR花巻駅や新花巻駅、花巻病院、宮沢賢治記念館等に置いています。プランターの回収は保護者が中心に行い、農場で生徒と一緒にプランターの洗浄作業などの後片付けも行っています。何よりも大切なことは、生徒たちが花の植え付けの先生役となり、保護者との交流をしながら活動ができることにあります。生徒さんも照れながら指導役となって保護者と交流する姿は、笑顔があふれ微笑ましい場面でもあります。



以上の3委員会は、各クラス1名としています。母親委員会はクラス2名の計18名が構成員となっています。具体的な活動として、コロナ前では花農祭におけるPTA展で、軽食・喫茶部門をPTA役員・生徒と共に運営していました。毎年、生徒や来場者から好評で休む暇もないほど忙しかったと聞いています。コロナの影響もあり、食べ物を提供することができず、昨年度は内容を検討した結果、お祭り広場的な、生徒に楽しんでもらう企画展を行いました。役員が講師役となり「消しゴムハンコ」を作ったり、昔懐かしい「型抜き」の仕方を教えたりしました。また、くじ引きコーナーなど生徒以外の保護者の方からも好評で、本来生徒を楽しませることを目標としていましたが、生徒と一緒に私たち保護者も楽しませていただきました。

また、部活動ではありませんが、一輪車の全国競技会で入賞した生徒さんを花農祭で紹介してはどうでしょうかとの意見もあり、特別公演を企画しました。公演後、生徒・保護者・先生方からもすごい反響があり、是非今年も企画してみたいと思います。

以上のような活動を通して思うことは、PTA活動は子供たちや学校の理解の場であると共に、私たち保護者も共に学べる場であることです。一方的に何かを行うのではなく、今子どもたちに、また学校に何が必要なのか、そして、私たち保護者に何ができるのかを考え行動することだと思います。

特にこの2～3年はコロナの影響で学校生活に大きなダメージを受けましたが、全て悪いことだった訳ではないと思いますし、保護者が子どもたちのことや学校のことを考える良い機会になったのではないのでしょうか。コロナ前であれば、先生方が色々とアイデアを出してリードしてもらっていましたが、コロナの影響により制限・我慢だらけの子どもたちのために何かしてやりたいと自ら意見を出し合って良いものやっいていこうとする気持ちが強くなったと感じました。「子どもは親の背中を見て育つ」といいますが、子供たちに良い影響を与えることができるよう保護者が積極的に学校に関わり、子どもたちと共に学んでいきたいと思っています。



「アフターコロナのPTA活動について」

～我々ができることの再認識と共有～



福島県立会津高等学校

PTA会長

森田 康文

会津高等学校は、会津地方唯一の進学指導拠点校に指定されている普通科高校です。戊辰戦争で活躍した白虎隊士が学んだ藩校日新館の流れをくみ、明治23年に設立され、今年で創立133年を迎えます。32,000人以上の卒業生は、政財界、文化・スポーツ界で活躍する著名人も多く輩出しています。

平成27年に「復興と未来を担うグローバルリーダー育成事業」の指定を受け、令和4年には普通科単位制を開始し、医学コースを導入しました。

スクール・ミッションは、高い知性と豊かな人間性を育み、論理的思考力、コミュニケーション能力、リーダーシップを身に付けることで、日本や世界で活躍できるグローバルリーダーの育成を目指しています。

校是は「好学愛校」「文武不岐」。「文武不岐」とは「学問と武道は別物ではなく、学問と武道を極めてこそ、人として向上する」という意味です。

現役生の進学率は90%以上で、国公立大学をはじめとする大学への進学しています。また部活動でも、合唱部が11年連続で全日本合唱コンクール全国大会で金賞を受賞するなど、スポーツ部、文化部でも優秀な成績を残しています。

本校のPTA活動

本校のPTAは会長をはじめ、副会長3名、監事3名、そして活動を行う5つの専門委員会構成されています。進路対策委員会は、毎年7月に全学年の保護者を対象とした進路学習会の準備・運営。健全育成委員会は、年に6回、生徒たちの生活指導及び登校時の交通安全指導。調査広報委員会は、学校行事の写真撮影や年に3回の会報発行。総務委員会は、庶務や研修会などの実施。学年委員会は、各学年で行われる進路学習会や親睦会、そして毎年10月下旬に開催される創立記念日マラソン大会時に、会津高校PTA伝統である「学而汁」の振る舞いを実施しています。

「学而汁」とは、里芋と野菜、豚肉を入れた味噌仕立ての芋煮汁です。「学而汁」の振る舞いは、PTA行事の中でも子供たちと触れ合う機会を提供する唯一の行事です。10月下旬に行われることで、生徒たちに楽しい雰囲気味わってもらうため、保護者たちは学年ごとのテントをハロウィンの飾り付けで盛り上げます。各学年で約250食分、計750食分が提供されます。美味しく食べてもらうため、様々な隠し調味料が使われることも楽しみの一つです。さらに、3学年の生徒たちには受験合格を祈願して、合格の文字を焼印した揚げ物を提供するのが一つの伝統行事となっています。

これらは、積極的に取り組んでいるPTAメンバーのおかげで実現しています。各専門委員会の活動や行事を通じて、保護者同士や教師との交流が深まり、一体感が高まります。

新型コロナウイルスの感染拡大により、学校では生徒たちの登校制限や学校行事が自粛となり、当たり前だった日常が一変しました。その影響は、学校の校風や伝統行事の継承に加えて、私たちPTAの活動にも及びました。



活動が制限されることで、PTA活動のメリットである保護者同士や先生方との交流が失われました。保護者は、同学年の父兄との交流が「子育て相談の場」であったり、先生方との交流は、「我が子の学校での様子を把握する良い機会」でした。このような機会が3年間も失われたのです。

さらに、保護者同士のつながりが希薄になることで、新たなPTAメンバーを勧誘することも困難となっています。実際、本校のPTAメンバーは新型コロナウイルスの蔓延から年々減少しており、メンバーが不足しているため、単独で活動を実施するのが困難な専門委員会も存在しています。

コロナ禍のPTA活動と現状

新型コロナウイルスの影響で、学校やPTA活動は長い間、自粛されてきました。しかし、この度5類感染症に移行したことで、学校・PTA行事が再び動き出します。

現在のPTAメンバーの中には、これまでに経験したことのない活動に戸惑っている方もいます。また、新型コロナウイルスの発生以前のような活動に戻すことは容易ではないと感じている方もいるでしょう。しかし、この3年間の活動の空白期間を、再び保護者と教師が連携し、学校と生徒のために何ができるかを考え直す絶好の機会だと捉えています。さらに、PTAメンバーは毎年新しい世代が入ってきます。彼らが活躍するためには、彼らの考え方を受け入れていく必要があります。

今後のPTA活動

そこで、本校PTAは今年度、特別委員会を設立し、役員や専門委員会のメンバーが再度活動を検証し、まとめた報告書を作成する予定で、将来の活動の再構築や新メンバーの勧誘活動に役立つ資料を作成することを目指しています。これを通じて、保護者と教師が「生徒たちのために、学校のために、何ができるか」を理解し、共通の認識を持つことが今後の円滑なPTA活動並びに生徒や学校への貢献に繋がると信じています。

また、少子化で生徒数が減少し、PTAメンバーも減少する可能性もあります。しかし、私たちは活動の大きさよりも、保護者と教師による「真心のこもった活動」が本来のPTA活動であると考え、生徒、学校のために貢献できるPTA活動に努めて参りたいと思います。



質疑応答

Q：宮城県工業高等学校 PTA副会長 門澤 崇

岩手県立花巻農業高等学校の発表の中で、PTA役員選出の際に、PTA会長さんと副会長さんが手分けをして各クラスに入って選出の手伝いをしているというお話がありましたが、具体的にどのようなことをされていて、それによってどのような効果が得られているかを教えていただければと思います。

A：岩手県立花巻農業高等学校 PTA会長 志田藤 ひとみ

各クラスに分かれて入りますが、やはりPTAの活動内容が分からないという方が多く、敷居も高く感じる方がいらっしゃるので、入ってみればとても楽しいですよ、そんなに難しいことではないですよということを伝えていきます。また、活動に必ず参加しなければならないということがやはり皆さん心配される場所のようで、皆さん仕事をされているので、できるところだけでいいですよという声をかけています。

入学式の説明会の時に、PTA活動に興味がありますかとか、中学校までに役員をしたことがありますかというアンケートをとっているのので、あらかじめ興味のある方に声をかけたりしています。



Q：宮城県宮城野高等学校 PTA副会長 熱海 和美

秋田県立大館桂桜高校のPTA会長さんのお話の中で、母親部というのがあったかと思います。あまり私は耳なじみのない言葉で、具体的にどのような活動をされるのか、また参加されるお母さん方はどのような感想をお持ちなのかを教えてください。

A：秋田県立大館桂桜高等学校 PTA会長 川田 諭

お答えしたいところですが、母親部なので、実は私も入ったことがないのです（笑い）。

A：秋田県高等学校PTA連合会 前会長 榎尾 春香

秋田県には母親委員会という委員会がありまして、私自身も息子が高校に入学した際に初めて参加させていただいて知った会ではありました。東北では岩手県と秋田県だけという話です。年に一回、単Pの母親の方々が会員となって、交流会を開いているところです。秋田県では毎年参加率が非常に高く、母親同士の交流会を皆さん楽しみにしています。研修も兼ねての座談会ということで、コロナ禍でも、毎年何かしらの形で人数制限をしながら開催をしたところがございます。卒業してからも母親のつながり・交流は盛んで、代々の会長の方々もいつでも集まることのできる体制が整っています。毎年いろいろな研修をしていますので、興味のある方は秋田県の方に是非いらしていただければと思います。



指導助言

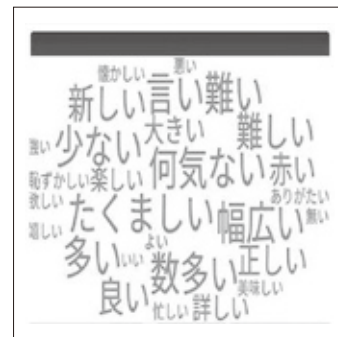


郡山ザベリオ学園小・中学校長 高橋 正人 氏

大会要項にある、全部で2万字に及ぶ6校の方々の発表原稿から、ワードクラウドで一番多く出てくる言葉は何かなと調べると、「〇〇対策委員会」「研修会」「役員」「生徒」という文字が出てきました。

さらに、それらを動詞で見ると、「行う」「いただく」「もらう」「持つ」「考える」「行く」「楽しむ」「努める」「入る」「伴う」「続く」「関わる」「高める」「返す」「盛り上げる」。

また、形容詞で拾ってみると、一番多く出てくるのが「たくましい（子どもたち）」。「あるいは」「少ない」「何気ない」「言い難い」「懐かしい」「恥ずかしい」という言葉が出てきました。今日の発表を見て、改めて会長様、会場の会員の皆様方の思いが、これらから伝わってくるように感じました。



発表された学校のHPで各校の校歌を拝見し、それぞれ素晴らしいのは勿論、それを教員、保護者、そして中心にいる子どもたちが、歌い続けていることが大切なのだと思います。校歌はある意味で子どもたち、保護者、そして皆様方をつなぐ架け橋になるものだと思います。どの校歌にもいい言葉がたくさんありました。これらが若い子どもたちに一生残るものなのではと思ったところです。

キーワードを2つだけ申し上げたいと思います。今回の発表の中で「共に」という言葉がたくさん出てきました。大事だなと思っております。「共に学び」、保護者も一緒に学び、そして遊び、「共に楽しむ」「共に悲しむ」。こういう思いにより、保護者、そして教員、そして子どもたちが一緒になれるかなと思いますし、さらに「共に生きる」「共に創る」「共に見つめる」「共に聞く」、ということが大切だなと思っております。

キーワードの2つ目が「支える」。「言葉で支える」「あいさつで支える」「声で支える」「心で支える」「食で支える」「土地で支える」「家庭で支える」「文化で支える」もう一つ、皆さんの発表にありましたけれど、「笑顔で」「背中で」というのもいい言葉だと思いました。もう一つ、子供たちは支えられる側から支える側に成長する。それが大事だなと思いました。いつまでも支えられることに甘んじない、むしろ支える側に成長させる、これが大事な命のリレーとして繋がっていくものだと思います。



最後に一つだけ付け加えさせていただきますと、3・11の時、私はいわき教育事務所長をしており、私が実際に豊間海岸に行った折、私自身が対峙したのは、360度何もない状況でした。今はもちろん復興していますが、私はいつかまたこういうことが起こると考えた時に、子供たちに、22世紀に生きるということをお伝えしたいと思っています。

岩手県の高校の先生、照井翠様の句集にある「なぜみちのく なぜ3・11 なぜに君」、これは絶唱だと思います。





「東北の災害リスクと子どもたちの未来」

気象予報士 防災士 気象キャスター

齋藤 恭紀 氏

皆さん、こんにちは。福島テレビ所属の気象予報士、齋藤恭紀と申します。福島の方は特徴のある顔が毎日テレビに出ていますので、嫌でも目にすると思います。また、2013年までの11年間、宮城の東北放送にもおりましたので、知っている方もいらっしゃると思います。その他の方は、「誰だこいつ。有名人じゃないじゃん」と、思われるかもしれませんが、我慢して聞いてください。

こう見えても54歳、福山雅治と同年です。同じ世代の方もいるかもしれませんが、まだまだ現役の責任世代でございます。PTAを担う皆さん、大変ですよ。今日も休みを取られて、少しでも地域のPTA活動を良くしていこうという思いのもと、参加されていると思います。それもこれも、子どもたちが素敵な学校生活を送れるようにという親心、社会への貢献というところがあると思います。そういった皆さんの姿勢に敬意を表したいと思います。私も中学校のPTA会長を3年間やらせていただきました。大変でした。親御さんによってかなりPTAに対する思いの濃淡があり、それをどうやって整理し、積極的でない人を前向きにするか、というところに苦心されているかと思えます。

さて、今日は子どもたちのため、社会のために、これから災害が多発する時代、今年是一体どんな夏になるのか。「地震の東北地方のリスクって？」ということに答えながら、進めてまいりたいと思います。

□福島の面白あるある

その前に、福島へようこそということで、「福島ってこんな県」、「福島の面白あるある」を皆様を紹介します。福島というと果物とか、美味しいお酒ばかりアピールするのですが、こんなところもあります。

福島で日本一多いものをご存知ですか。『「しまむら」の数』一番なのです。よくわかりませんが、福島県の方は「しまむら」好きだ。いいですよ、福島の皆さん。

『中学の部活動の活動率が高い』、半ば強制的に入らせるという話もあります。

『高血圧患者数』。これは嬉しくないですが、しょっぱいのが好き。とにかく日本酒が美味しい。今回は山形の皆さん、おめでとうございます。新酒鑑評会の発表日、福島県はニュース速報が出ます。

『果物の消費量』。これはとにかく美味しい。もう桃も出ています。ブドウ、さくらんぼも出ています。

『授かり婚率』。なぜですかね。他県に比べると婚姻年齢も低いんですね。

低いもの、少ないものでは『パンの消費量』。それから、『牛肉』はあまり食べません。すき焼きを牛でやらないんですよ。豚でやるんです。



それから『ローソンの店舗数』がすごく少ない。セブンイレブンがやたら多い。

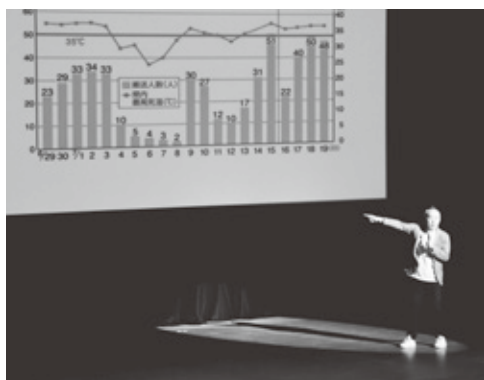
面白いのは、中学の部活動の活動率が高くて、大人も含めた『スポーツ活動率が低い』。だからメタボ率が高くなって、心筋梗塞とか内臓疾患系の病気なども結構多い。

裏表隠さずにお話しすれば、こういうのが福島県でございます。

□熱中症にならないために

今朝、天気予報をチェックした方もいると思いますが、突出して福島は高いですよ。37℃です。全国のランキングで福島が1位になることも多い。福島は周囲を山に囲まれています。普通、太陽に照らされて陸地が温まると、上昇気流が発生します。すると、それを補うように風が吹きます。だから仙台は涼しい。私も10年住んでいましたが、エアコンのない家が多いです。山背が吹くから、浜通りも仙台も岩手の三陸も八戸あたりもすごく涼しい。ところが、浜風が入らないから、福島の中通りはものすごく暑くなります。

もう一つの原因。米沢盆地は山形ですが、標高は福島が60mで、それよりも米沢は高く、盆地で熱くなった空気が、西風に乗って吾妻山を越えてくる。フェーン現象で乾いた熱風が福島盆地に吹き下りるので、福島は非常に暑くなります。その暑さが美味しい桃を作るんです。



最近の7月で気温が上がったのは2018年でした。今年はこれに近くなると見ております。夏休み中も部活は行われると思うのですが、とにかく熱中症に気をつけてください。福島のデータですが、救急搬送数は気温が35℃を超えると急激に増えます。梅雨入り辺りが最も熱中症になりやすい。

蒸し暑い中で運動や仕事をするすると体内で熱が発生します。すると汗をかきます。汗が蒸発する時に気化熱が発生して体が冷やされるので、汗をかけばかくほど、熱中症のリスクは低くなります。ところが、体に熱がこもることがあります。湿度が高い時です。ムシムシした状態の中で運動をしていると、汗をか

いても湿度が高いから蒸発しない。すると、体の深部に熱がたまって内臓の動きが悪くなり、熱中症にかかる。暑さ以上に湿度、これが熱中症にかかるかどうかの大きなポイントになります。湿気がこもった部屋の中、これが熱中症の救急搬送で最も多いのです。

福島市のデータでは、令和元年が最も熱中症が多かったのですが、それ以降も高止まっています。近年の熱波、温暖化によって、熱中症のリスクはずっと高いままでです。暑熱順化、暑さ慣れしていないので、7月が最も熱中症にかかりやすくなる。どうすれば熱中症にかからないか。暑さ慣れすればいいのです。ちょっと早歩きで散歩したり、ランニングをしたり、サウナに入ったりすると暑熱順化になります。是非、暑さ慣れして、今年のとんでもない夏の備えをしていただきたいと思います。

熱中症にならないためには、冷た過ぎる水を入れられない。内臓に負担がかかるので常温が良い。そして、手のひらを冷やすことが良いそうです。首とか手首とか3つの首と言いますが、実はここに静脈と動脈をつなぐ血管、AVA血管と言うらしいのですが、そこに冷たいペットボトルを当てると、冷たい血液が体の芯まで入ってくる。すると体の深部の熱を冷まし、熱中症になりにくい体を作るといことです。

今は梅雨です。梅雨のもとになる雲は、風のケンカで起こるのです。風のケンカは雲のもと。オホーツク海高気圧から時計回りで風が回っています。北海道の東海上、岩手の三陸、宮城県、福島県浜通りに湿った北東の風が吹いて来ます。これが山背です。岩手の方は、宮沢賢治が山背の話をしていま



すので聞き覚えがあると思いますし、宮城の方も、福島の方でもよくご存知なのかな。逆に日本海側の方は、山背ってあまり聞いたことがないと思います。山背を感じるのは太平洋側となりますが、今年は山背が吹かないんです。今年の梅雨はただ蒸し暑いだけです。なぜならば、山背製造機が全く稼働しないからなんです。来週以降もオホーツク海高気圧が全然ない。梅雨前線が消えています。つまり、夏型気圧配置になるんです。こういう気圧配置を見ると、私たち気象予報士は、「梅雨明けだ」と思います。梅雨明けは、山形、福島、宮城では、ズバリ来週の土曜日です。

□めちゃくちゃ暑くて長い夏

では、梅雨明け後の夏はどうなるのか。「夏の天気占うつらら」があるというのをご存知でしょうか。これがよく当たるんです。その名は、岩手県花巻市石鳥谷地区の「たろし滝」です。私は毎年、岩手めんこいテレビにこのVTRを発注します。「なんで福島の局の人が石鳥谷の『たろし滝』を」と、めんこいテレビの人は思っているはず。私はこれに大変注目しています。「たろし滝」のたろしというのは垂氷（たるひ）で、垂れる氷と書きます。滝のつららの占いですね。この「たろし滝」の胴回りが非常に大きくなった年は、夏が豊作で暑くなる。これが「たろし滝」の占いで、よく当たります。「たろし滝」が太く凍結すると夏は暑くなる。この「たろし滝」というのは確か400年、いや、もっと続く祭礼です。それぐらい地元の石鳥谷の方が大切にされているお祭りなのです。よく当たります。



1993年を覚えているでしょうか。作況指数が20台。これは福島も宮城も秋田も青森も日本海側も含めてでした。夏の太平洋高気圧が全く張り出さず、山背ばかり吹いていた。それでお米が全然とれず、タイから輸入したのです。その年の前の冬は、「たろし滝」が全く凍りつかなかった。ずっとこの「たろし滝」を見てくると、こういう事例にたくさん当たります。今年の「たろし滝」は5m40cmです。ということは、今年は豊作です。イコール、夏が暑くなる。今年は暑い夏の条件が揃い過ぎています。

まず、東北地方は温暖化で冷夏がなくなり、去年まで13年連続の暑い夏です。これを強く感じるのが、山形、福島、秋田の盆地の皆さん。「本当に夏が暑くなっているな」と感じていると思います。気象庁の予報をウェザーニューズが作図したものを見ると、南の夏の太平洋高気圧、今年は既に張り出して強いです。最近、ヒマラヤの雪がすごく少なくなっています。すると、チベットの山肌に雪が少なくなり、山肌の上で上昇気流が発生します。山頂のより高いところは、下降してきます。その空気が、日本、極東アジアの方に落ちてきます。地上付近は亜熱帯の夏の高気圧、そして上からはチベットからの高気圧。高気圧は圧力鍋と同じで、上から圧力がかかる。圧力がかかれば、空気の温度が上がる。上から下からのダブル圧力です。だから私たち東北に住む人間は、まるで圧力鍋の下の芋煮みたいになるんです。今年の夏は、めちゃくちゃ暑い夏になります。

猛暑で売上げが上がるもの。『サラダの売上げ』『出前の注文』、そして、『フィットネス』、外で運動できない。『タクシー』、歩きたくない。それから『ヒートテックとか防寒肌着』が売れます。冷房をガンガンつけるからです。そして、『パソコンの故障』。これは温度が上がるからファンを回すんですかね。

そして、売上げが減るもの、『根菜もの』。煮物なんかしたくないじゃないですか。それから『殺虫剤の売上げ』が気温が上がると減る理由。蚊も暑いと行動しないんです。蚊はだいたい25℃から30℃を超えると活動しなくなり、猛暑の時は意外と少ない。それから『テーマパークの入場者』『ゴルフ場の入場者』『献血協力者』。『牛乳生産』、これは酪農家の方も大変です。牛はあまりに暑いとストレスが溜まって乳を出さなくなる。

ただ、社会全体で言うと、日本は暑い夏、寒い冬ということで経済活動がそれをベースに回っていますか



ら、やはりある程度暑くなるほど、経済、個人消費は回るし、冬、寒ければ、個人消費は良くなるんです。逆に冷夏や暖冬の方が、個人消費が回らなくなって、景気には悪影響が出るのですが、度が過ぎて暑くなって、みんなが外出をしなくなったりすると、逆に個人消費が減ってしまう可能性もあるので、程々の暑さにして欲しいなと思います。

□私のこれまで

ここで簡単な自己紹介をいたします。私の履歴書ですが、大したものではありません。大学受験に失敗して、浪人しましたが、意中の大学には行けず、裕福な家ではなかったので、私立の大学に行かせていただくだけでも感謝ということで、授業料を払うためにバイトをする必要がありました。東京ディズニーリゾートで大学1年からバイトをしました。時給1,200円です。楽しい世界で、バイトに明け暮れる毎日でした。

そのまま大学4年で、就職活動です。夢ややりたいことはありませんでした。大学4年の1991年、バブル全盛です。求人倍率2.9倍、一人当たり3社です。企業が高級ホテルで接待。説明会に行くだけで交通費が1万円。携帯がないから、他社に連絡させないために、ハワイに連れて行ったり。そんなことを企業がしていた狂った時代でした。

夢はなかったが、新聞記者には興味がありました。社会への問題意識があったわけではなく、何か面白そうだとか、ニュースの最前線は格好いい、みたいな不純な動機です。20社受けて全部駄目でした。大学4年11月で就職が決まってないのは私だけで、困って新聞の求人欄で職を探す。すると、「あなたも地球の体温を測ってみませんか」と、怪しい求人広告。民間天気予報会社・ウェザーニューズ社の広告だったのです。ウェザーニューズは今、結構有名な会社になって、広瀬すずさんが「日本で一番当たる天気は、ウェザーニューズ」なんてCMをやっていますが、当時はまだベンチャーです。千葉の幕張にあるできたてのオフィスビルの21階。実家から自転車で20分。書類で落ちると思ったら「面接に来てください」と。「ええっ?」という感じで1次面接です。

第1次面接がなんと、ウェザーニューズを作った石橋博良社長でした。「天気予報だって、もっとバラエティーのある、子どもたちも楽しめ、老若男女が食いつくような情報発信、天気予報で何か商売やる方法もあるんじゃないですかね」なんて、何にも知らないのに偉そうに言いました。そうしたら社長は、「その通りだ、斎藤君。気象情報は命や財産を守る重要な使命があるが、ニュースにもエンターテインメントにもなるんだよ。面白いね、採用だ」。10分で採用が決まりました。これが、私と天気予報の出会いです。この出会いがなければ、こうやって1,000人もの皆さんの前で話をすることはなかったでしょう。運命の扉を開いてくださったのが、石橋さんです。なぜ簡単に採用になったのか、理由は後でわかります。

民間の天気予報会社はどんなことをするのかというと、法人に天気予報に価値をつけて売るんです。私がバイトをしていた東京ディズニーリゾート。ここは19時半になると花火を打ち上げます。あそこは南風がめちゃくちゃ強い。千葉マリンスタジアムの風もすごい。風が強い場所で、花火が不発だったりしたら、これが舞浜の高級住宅街に行くわけです。そうならないよう、風速10mの日は花火を打ち上げない。つまり、リスクヘッジをするために、ディズニーリゾートは天気予報を買っています。

コンビニエンスストア。セブンイレブン、ファミリーマート、ローソンは、みな天気予報を買っています。



それぐらい天気が売り上げを大きく左右する。今日は37℃です。こんな中で鍋焼きうどんを食べたいという人はいない。冷たい麺ですよ。今日、冷たい麺を何個仕入れるか、仕入れの時に天気予報を使って廃棄ロスを防ごうとします。コンビニもリスクヘッジをして、売り上げを得るために天気予報を使う。

半導体の工場。電線に雷サージが入って電気が止まり、生産ラインが何秒か止まっただけで数100万のロスが出ます。山形県の酒田に半導体工場があります。酒田は全国で一番雷が落ちる場所なんです。そこに半導体の工場を作っちゃった。東北エプソンさんだったかな。その工場を作る

前に、私に相談してくれればよかったんです。でも、作っちゃったから、東北エプソンさんは雷の予報を買っている。

こういう形で、対法人気象予報を発信する。今や世界一の民間の気象情報会社です。ところが、私が入った時はバリバリのベンチャー企業でした。今は社員600人以上ですが、私がいた時は80人。しかし、名前が知られ始めて、「この会社、面白いよね」という感じで、仕事がたくさん来るようになったのです。もうやり切れないぐらい。一人一人の仕事量が、ものすごく大きくなりました。

私の1年目、何をしたかということ、テレビの天気予報の原稿を書く仕事です。今は気象衛星もレーダーもアメダスも、すべてのデータをパソコン上で見ることができまますから、それを見て原稿が書けます。「明日は移動性高気圧に覆われる見込みです。今は曇っていますが、明日は晴れて暑くなるでしょう。」などと、東京や千葉で書かれたものを、アナウンサーが読む。その原稿書きを1年やりました。でも、ほとんど天気予報の知識はないのに、どうしてそんなことができるのか。気象庁から送られてくる概況文というカンニングペーパーがあるのです。それをコピーペーストし、はい、送信。やばい仕事です。大人の仕事じゃありません。そんなことを勉強もせずにやっていたわけです。



そのうち、「斎藤、お前、お天気キャスターをやれ」「先輩、無理ですよ。カンニングペーパーを見ながら書いてるんですから」「わかってるよ。でも誰もいないんだ。次から次と辞めちゃって」「本当に僕でいいんですか」と行った先にいた人が「おはよう朝日です」のミヤネさん。当時は局アナです。「こころ晴天」の上沼恵美子さん。この二人が鎮座しているところに、私は飛び込まされました。知識はない。だけど、この人たちはひたすら私をいじり倒すわけです。「斎藤さんの服のセンス、悪っ！」から入る。3分間あるうちの2分30秒は雑談で、30秒だけ天気予報。なんという大阪の天気予報なのでしょう。こういう方々のサポートのおかげもあり、私は気象の知識がほとんどないまま、キャスターとして売れっ子になりました。こんなの絶対あってはいけません。何の努力もしていないのに。そんなに世間は甘くはありませんでした。

1995年、気象予報士試験ができました。私は、資格なんていない。カンニングペーパーがあれば渡っていけると、完全に舐めていました。勉強しないのですから1回目不合格。その頃から「やっぱりお天気キャスターは、気象予報士資格なきやだめだよ」ということに、世間も私も気づき、その後は寝る時以外はずっと勉強。今までで一番勉強しましたが、5回目まで不合格です。大阪の仕事がなくなりました。

その後、予報センターに勤務しました。これがすごく役に立ち、1年間徹底的に気象学を学んで、8回目で合格しました。お天気キャスターの中で、8回受けたのは私だけだと思います。でも、良かったなと思っています。努力不足は自分のせいですが、その時の苦労があって、こうやって皆さんの前で、話をさせていただいている。その時の苦労が自分の気象学の土台となり、自信を持ってお話しすることができているので、一発で受かったり、受験の苦労がなかったら、こういう人生になっていたかなと思います。子どもたちにも言うのですが、夢や目標を決めたら、徹底的にそこに至る努力をすること、その努力は必ず血や肉になるということを、その5年間で学びました。100人の中5人しか受からない超難関で、たまに中学生が受かるって？天才なんですかね。よくわかりませんが、私はこういう道をたどってきました。

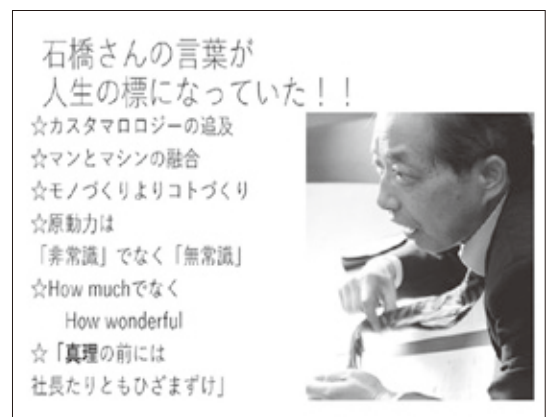
ウェザーニューズは、インターネットで天気予報の番組をやっておりますが、その前身のBS910お天気チャンネルを立ち上げ、お天気キャスターに戻りました。それがテレビ朝日のプロデューサーの目に留まり、「斎藤君、技術があって、喋りもあって面白いね。新しいニュース番組やるんだけど、天気キャスターをメインで」とお声を掛けていただき、喜んでいたら、小宮悦子さんがスタッフ会議で言った「もっと格好いいキャスターいないの」というひどい一言で、私の内定が取り消されました。本当です。しょうがない。顔は変えようないですから。

それで、テレビ朝日のプロデューサーが、気の毒に思って持ってきていただいたのが「ヤン坊マー坊天気



予報」だったのです。「1分30秒のために、毎日東京に通うのかぁ」みたいなね。でも、実は全国天気を1分30秒で詳しく伝えるのはなかなか難しい。短い時間で、ポイントを絞って伝える技術、いかに短くするか、いかに削り取るかは、全部ここで学んだことでございます。本当に石橋さんに感謝です。

「マンとマシンの融合」、「モノづくりよりコトづくり」、「ハウマッチじゃなくてハウワンダフル」。ハウマッチっていうのは、いきなり「この仕事、なんぼで売りますよ」じゃなくて、いい仕事をするとお金は後からついてくるんだ、という石橋さんの気持ちで、今も仕事をさせていただいております。ウェザーニューズは「どんどんキャリアを培って、自分の活躍できる場所へ行きなさい」という、懐の多い大きい会社だったので、私もその言葉を受けて、2002年、東北放送に入社しました。



今でも続いている「ウォッチンみやぎ」という番組があります。頑張りました。「人間アメダス」という、今ではどこでもやっていますが、空がどんな色なのかとか、風の冷たさを、視聴者の皆さんが表現してくれるのをバツと書き出し、今日は冷たいとか、通勤は凍っていますというのを、どんどん画面に貼り出して、みんなで一緒に天気予報を作っていくという、20年前としては斬新なことをやりました。

「マンとマシンの融合」。今、福島テレビでもやっていますが、スーパーコンピューターの情報をうまくビジュアル化して、「今日はこんな空色ですよ。午後になると真っ黒い雲になって、ザーッと雨が降りますよ」と、CGの中で展開していく。マンとマシンの融合ということで、石橋さんと約束した「気象は命を守るツールにも、そしてエンターテインメントにもなるんだよ。今までと違うものを斎藤、やれ」と、そういう約束を果たすことが、今、できているのかなと思います。今は福島テレビの専属気象予報士、気象はニュースにもエンターテインメントにもなるって話を、具現化させていただいております。

□ハザードマップと土地の履歴

私の使命は、情報をもって命や財産を守ることです。私が福島に来てから、最も忘れられない災害は、4年前の台風19号です。福島では32の方が亡くなりました。災害と言っても、色々な側面があります。例えば、関東大震災は9割以上が焼死です。今のように震度5強でガスが止まったりせず、火鉢で炭を起こしていたりすると火事になり、隣の家に飛び火し、町全体が火事になり、全体が熱くなると火炎旋風が起き、それが下町を襲って多くの方が亡くなりました。阪神大震災は8割以上が圧死です。それは、家の屋根や壁が落ちてきて亡くなる。東日本大震災は、9割以上の方が津波にのまれた溺死。加えて、避難した後の震災関連死も大変多いのが東日本大震災です。そして、この台風19号は、死者32人のうち60歳以上が26人と、高齢者が亡くなっています。運転中は9人です。

皆さん、大雨で冠水したところに、車で突っ込まないでくださいね。基本的に大雨冠水中に車を走らせるのは、大変危険だということを、頭の中に入れておいてください。車で避難するのは大雨の前。私は車で避難を、コロナのリスク回避という点からもお勧めします。溺死した方は、ほとんどが浸水想定区域に住んでいた方で、つまり、浸水想定区域に住んでいたにもかかわらず、避難指示が出たにもかかわらず、避難しなかった方が亡くなった。「ここは一回も水、来たことねえから」と思ったり、もしかしたら、避難指示が聞こえなかったかもしれない。そういうことで亡くなった多くの方がいるということになります。

『ハザードマップ』。これは郡山市で、2019年の台風19号で浸水した場所です。赤い部分が浸水想定図です。東北地方で浸水した所は、ほぼ浸水想定がされていた場所です。ですから、水害から命を守るために、何が一番必要かは簡単です。ハザードマップを見て、自分の住んでいる場所、そして自分の通っている学校や職場が、安全かどうかを知る。これでほぼ半分、命は守られたようなものです。それを知って、避難指示が出たら逃げる。そうさえすれば、もう100%水害から命を守ることができるというわけです。浸水想定区域以



外に住んでいる方は、避難指示が出て、垂直避難、2階へ行けばいいだけです。ですから、避難指示とは、避難所に行くことだけではないことも、頭に入れておいていただきたいと思います。

大きな台風で、関東に上陸、福島、宮城をかすめる。これが東北の太平洋側で最も被害が出るパターンです。秋田、青森、山形の被害パターンは、日本海から抜けていくパターンです。特にリング台風というのが青森でありましたが、日本海に抜ける台風は、基本的にスピードが上がりますので、台風の渦の速さと台風そのものの速さが合わさって、ものすごい風が吹きます。ですから、日本海を吹き抜ける台風は、日本海側で暴風の被害を出す。ということで、太平洋側は基本的に両台風、日本海側は風台風。大体そんなイメージを持っていただきたいと思います。この水害の最大の特徴は、大河川の氾濫ではないところです。大河川が平成の大改修で、北上川も阿武隈川も改修が進みました。そういう大きな川が強化されてしまったので、流れ込む支流が本流に流れ込めなくて逆流してしまいました。だから、本流と支流の境目の部分で、堤防が壊れるということが結構多かった。福島県ではほとんどが支流、バックウォーターということになります。



そして、ここから重要なのですが、いかに人命を助けるか。皆さん、PTAの役員だったりすると、責任感もある皆さんでしょうから、町内会でも何らかの責任を負われていると思います。これからは自助・共助・公助のうち、公助にばかり頼ってはいけないと私は思っていて、自分で自分の身を助ける。そして、ご近所やPTA、そういうもので、共に助け合う共助。それと公助のミックスバランスだと思っています。

須賀川の事例です。館取というところですが、ここで二人の方が亡くなっています。Aさんという78歳の男性は、一人暮らしのアパートで亡くなっていました。アパートから約200m北を流れる釈迦堂川は氾濫しておらず、この地区から釈迦堂川に流れ込む水路が溢れました。川ではなく水路が溢れた。地区の住民によると、Aさんは足腰が悪い上、近所付き合いも少なく逃げ遅れたとみられる。Aさんは親族とも疎遠な様子で、町内会にも入っていなかった。少子高齢化が進み、特に都市部では核家族化が進んでいます。こういう高齢の方は、これから増えていくでしょう。高齢の方が、いわゆる災害弱者になっています。もう一人、79歳の女性が溺れて亡くなりました。この方は聴覚障害をお持ちだったようです。避難指示が聞こえなかったということですね。そして、この方もほとんど人との関わりを持ってなかったということです。

では、その用水路はどんなものか。この用水路が溢れて人の命を奪う用水路に見えますか。これが溢れたわけです。これはハザードマップですが、水路の周りは大体3m以上、アパートの1階が浸水してしまうほどの浸水が、想定される場所だった。だから、避難指示になったら、誰よりも早く避難しなければいけない場所だったということです。



皆さんがお住まいの土地の履歴を知ることが大切です。国土地理院の治水地形図というのがあり、大きな都市の場合には、自由に閲覧することができます。先程の館取の土地の履歴を見てみましょう。これは須賀川の治水地形図ですが、青い部分がさっきの用水路です。なぜあんな用水路の周りに、浸水想定3m以上のところがあったのか、簡単です。この青い部分、用水の場所は、斜め青です。元の地形が旧河道だったのです。つまり、昔、川が流れていた。河川改修で釈迦堂川はまっすぐになりましたが、昔はちょうど館取の水路のところを川が流れていた。その名残の用水路だったわけです。つまり、水が集まりやすい場所だった。こういう、土地の履歴を知ることが、まず、自分の命のリスク、家屋の災害のリスクがあるかどうかを知る、一つの助けになると思いますので、是非参考にさせていただきたいと思います。



□災害の歴史から学ぶ

地震、津波災害も、土地の歴史を知ると、身構え方が変わります。ここから宮城の話をしていきます。3・11震災の塩釜と多賀城の被災状況です。塩釜は死者47名です。多賀城市は188名で塩釜の4倍です。全壊住宅の世帯も多賀城が1.7倍です。宮城の方はこう思うでしょう。「多賀城って、海あったけ」。多賀城の地図で海に面しているのは、仙台港のごく一部のところだけです。それなのに、塩釜より多くの方が亡くなった。どうしてか。これは川の逆流です。それと大きな建物や工場が海が見えない。多賀城そのものが海に面していないから、津波が来るという意識がほとんどなかった。防災広報装置が水に浸かったということは、行政もそれぐらいの認識しかなかったということです。津波の被害は想定外だった。実はNOです。この多賀城というところは、869年の貞観津波という津波で、町ごと壊滅しています。東日本大震災のように。



多賀城は東北、陸奥国の国府です。小倉百人一首にも出てきます。「契りきな かたみに袖をしぼりつつ 末の松山 なみこさじとは」。これは、清少納言の父親の歌です。意味は、「約束しましたよね。涙を流しながら。末の松山が、決して波を被ることがないように、二人の愛も変わらないと。それなのに、私を捨てやがって」という歌です。末の松山には、絶対に波が来ないということを、哀れな恋に落ちてしまった方を、末の松山というキーワードを使って詠んでいるのです。これ、よく覚えてください。末の松山は、波が被らない松山だと、これだけは覚えてください。

そして、こういう歌もあります。「わが袖は 潮干にみえぬ 沖の石の 人こそしらね かわく間もなし」。「私の着物の袖は、引き潮の時にも水面に現れない『沖の石』のように人は知らないでしょうが、あの人を思う恋の涙のために、乾く間もないのです」。沖の石はずっと濡れっぱなし、という歌だと思ってください。まず、沖の石と末の松山の間は、200m以内です。それで、末の松山は絶対に波の来ないところ。沖の石はずっと濡れている、袖の涙のように。では2011年の時どうだったのかということ、やはり沖の石までは津波が来て、末の松山はぎりぎり波が来なかったということです。だから、平安時代の和歌と同じことが、2011年の時も起きていた。



「865年、東北で大地震。人々は泣き叫び、倒れて立つこともできない程だった。牛馬は驚いて走り出し、足場を失った。建物の倒壊は数知れず、海は吠え、雷のようだった。長大な驚くべき波が湧き起こり、たちまち多賀城の城下に至った」という記録がありますが、ここで牛馬を車に変えてみてください。すると、東日本大震災の時とほとんど風景が変わらない。つまり、865年と同じことが、2011年にも起きたということです。東日本大震災のような歴史的津波は500年に一度のスパンで発生しています。皆さんに安心していただきたいのですが、福島県沖や宮

城県沖では、もうM9クラスのメガクエイクは起きません。岩手県、青森県沖は起きます。大地震が500年に一度起きるということを、行政がもう少し重視していれば、津波防災はもっと良くなっていたのではと、私は思います。それを踏まえ、歴史学を津波防災に取り込もうと、政府もやっているのですが、もうちょっと早くできなかったのかなと思います。

□東北は地震の巣

最後に、「東北は地震の巣」ということをお伝えしたいと思います。2011年以降、全国で最も地震の多い都道府県は、福島県です。福島が全国で1番、3番目が宮城です。4番目が岩手、そして9番目が青森、秋田は17番となります。残念ながら東北は地震が多い。特に2011年の東日本大震災以降は、大きな地殻変動が起きて地震が起きやすくなっています。地球は殻の割れた半熟卵です。黄身の部分は地殻、白身の部分はマン



トル、5000℃のグツグツ煮えきった流体です。それが地中の下の方から、グツグツとやってきます。すると殻の割れた所、私たちが踏みしめている大地にぶつかる。殻は割れているから動きます。そして割れたもう一つの殻の下に潜り込みます。すると、我慢できなくなってバリンと割れる、これが地震です。ここに海があると海が盛り上がります。これが津波です。ごく簡単に言えば。その割れた殻、プレートは、今、日本の上で4枚が重なり合っています。だから、マグニチュード6以上の地震の約2割が、日本付近で発生しているのです。



日本海の地震リスクはというと、過去、大きなものでは、日本海中部地震、秋田の皆さんはよく覚えているかと思います。地震が起きて約15分で、津波が沿岸を襲って多くの尊い命が奪われました。東北の日本海での大きな地震の特徴は、陸地から近いところで発生することです。ですから、あっという間に津波が到達する。だから、大きな揺れを感じたら、なるべく早く高台に逃げることが必要になります。

太平洋側のメガクエイクの心配は、福島や宮城はありません。ただ、残念ながら、福島県沖、そして宮城県沖、岩手県沖もそうですが、去年や一昨年に発生したようなM7クラスの地震は、かなり高い確率でこの30年以内でも起こると言われています。でも、あの程度かと思えば、今の耐震の構造は、昔とは違っていますので、より地震に強くなっていると思います。それよりも私が今一番危惧していること。それを伝えて最後、終わりたいと思います。



3年前、驚きのデータが公表されました。皆さんに共有していただきたいのが、日本海溝、津島海溝の地震です。これがとんでもない地震で、岩手や青森の太平洋側で、震度6強の揺れ。揺れもさることながら、津波の高さが尋常ではなく、八戸で26m、気仙沼で15m、南相馬で19mです。これは東日本大震災より波の高さが高い。なぜかという、東日本大震災よりも日本海溝の地震は、マグニチュードの規模が少しだけ高い。つまり、揺れのエネルギーが大きいので、起こす津波の高さも高くなってしまうということです。ですから、沿岸部に住んでいる皆さん、学校関係者の皆さんは、これを想定した避難訓練をして欲しいと思います。元々この太平洋側のエリアは津波の常襲地帯で、皆さんが津波に対して高い意識を持っておられるので、私が言うまでもないのですが、まだ起こり得るといことは、頭の中に入れておいてください。

最後に、地震は1日前に予報できると思いますか。できません。大きな地震が起きた後に、私のところにメールが来ます。「斎藤さん、3日前に私、地震が来るのはわかっていたんです」「ああ、嫌な予感がする。また、あの写真が付いてるのかな」。はい、付いています。地震雲。これ、必ず大きな地震の後に送られてきます。私は何とか説得したいので、返信します。「すみません。それは飛行機雲です」。地震雲なんかないんです。飛行機雲なんですね。雲の錯覚でこういう風に見えるというだけなのです。とにかく皆さんは、地震の巣の上で住んでいるということを実感して、是非、正しく怖がることで、ご家族と、そして学校や職場で、災害リスクについて話しながら、日々過ごしていただきたいと思います。

あちこちに話がいきってしまい、雑ばくな話になってしまいましたが、ご清聴ありがとうございました。暑い夏になるとと思いますので、お体にお気をつけてください。

閉会行事

次期開催県あいさつ

山形県高等学校PTA連合会会長 **古沢 和明**

2日間にわたる福島大会、お疲れ様でございました。福島県高P連の皆様が、かくも立派な大会を運営されましたこと、その力と熱意に恭敬の念を抱いているところでございます。

次年度は山形市での開催となります。われわれもしっかりと準備をして、皆様をお迎えしたいと思いますので、是非ご参加いただきますようお願い申し上げます。

第73回東北地区高等学校PTA連合会山形大会実行委員長 **近藤 聡**

本日は、山形県のおもてなし課長「きてけろくん」にも来ていただきました。山形弁で来てくださいますが「きてけろなあ」、横顔は山形県の形になっています。ところが、残念ながらお話しをすることができませんので、壇上のメンバーに山形の魅力を一言ずつ言ってもらいましょう。

「芋煮がおいしい」「かき氷」「山形牛・米沢牛」「さくらんぼ」「消費額日本一のラーメン」「いい温泉がたくさん」「月山の夏スキーと山菜」「蕎麦」「蔵王の樹氷」「日本百名山が6つも」。こんな魅力満載の山形が来年の開催地です。山形の魅力を探しに、来年は山形に「来てけろなあ」。よろしく願いいたします。

閉会宣言

第72回東北地区高等学校PTA連合会福島大会実行委員長 **鈴木 進一**

本日は、長い時間にわたりお付き合いいただき、誠にありがとうございました。至らない点多々あったものと思われませんが、皆様のご協力に心から感謝を申し上げます。

以上をもちまして、第72回東北地区高等学校PTA連合会福島大会を終了いたします。



第72回東北地区高等学校PTA連合会福島大会 参加者数

(人)

| 区分 | 県名等 | 参加者数 | 受賞者(内数) | 情報交換会 | 備考 |
|------|-------|------|---------|-------|--------------------------|
| 一般参加 | 青森県 | 110 | 4 | 81 | |
| | 岩手県 | 163 | 5 | 46 | |
| | 宮城県 | 140 | 1 | 32 | |
| | 秋田県 | 34 | 3 | 18 | |
| | 山形県 | 78 | 1 | 34 | |
| | 福島県 | 333 | 5 | 131 | |
| | 小計 | 858 | 19 | 342 | |
| その他 | 来賓等 | 6 | | 6 | |
| | 講師 | 1 | | | |
| | 指導助言者 | 1 | | 1 | |
| | 発表者等 | 80 | | 17 | 高校生発表出演生徒 アトラクション出演者等 |
| | その他 | | | 3 | |
| | 小計 | 88 | | 27 | |
| 合計 | | 946 | 19 | 369 | |

編集後記

7月6日、7日の2日間にわたる福島大会は、東北各県高P連の皆様のご理解とご協力により、何とか無事に終えることができました。

3年前に押さえていた会場が、昨年3月に本県を襲った震度6強の地震で使用不能となり、急遽代替施設を探すことになるとともに、コロナ禍や8月にお隣の宮城県で全国大会が開催されることから、参加を控える方が多いのでは等の危惧もあり、準備段階ではさまざまな調整が必要となったところでした。

このように皆様にご不便やご心配をおかけした本大会ですが、お陰様で、4年ぶりとなる情報交換会やメインとなる研究協議も従前の形で行うことができました。そして、何より多くの会員の皆様が集い、子どもたちのよりよい成長を願い、共に学び、意見を交わすことの大切さを、改めて実感できたことは、大会を主管した私どもにとりまして、誠に喜ばしい限りでありました。

研究協議において日頃の活動成果や課題について発表された各県代表の皆様、素晴らしいご助言をいただいた高橋正人様、楽しくもためになるご講演をいただいた斎藤恭紀様、さらには、大会のステージに華を添えていただいた高校生の皆さん、そして、大会の運営にご協力をいただいた全ての皆様に、心から感謝を申し上げます。

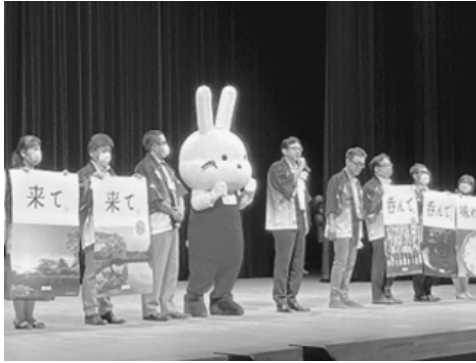
そのような大会の記録として、本報告書を作成いたしました。ご高覧くださるとともに、大会の模様を一端でもお伝えすることができれば、幸いこれに過ぎたるはありません。なお、本書の作成に当たっては、専門部会で記録担当の福島南高校PTAの皆様に、写真や文字起こしでご尽力いただきましたことを申し添えます。

最後になりますが、東北地区高等学校PTA連合会のますますの発展を祈念するとともに、次年度の大会を主管する山形県連への「エール」を添えて、編集後記といたします。

(実行委員会事務局)



[岩手から福島へ]



2022年7月1日 盛岡大会・次期開催県挨拶



2022年11月2日 第1回実行委員会

[そして来年の山形へ]



2023年7月7日 福島大会・次期開催県挨拶

第72回東北地区高等学校PTA連合会福島大会報告書

編集 第72回東北地区高等学校PTA連合会福島大会事務局
(福島県高等学校PTA連合会)
〒960-8153 福島市黒岩字田部屋53-1 (福島県青少年会館内)
TEL : 024-545-3368 FAX : 024-545-3402

印刷 アートブレイン合同会社
〒960-8074 福島市西中央一丁目25-1 タウン西中央Ⅱ E棟
TEL : 024-573-1503 FAX : 024-573-1504



福島大会 報告書

第72回 東北地区高等学校PTA連合会